

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2014年 10月

「神格-御父」「わたしたちの品性を通してキリストを映す」

「第三天使のメッセージ『第三天使と健康改革』」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

### 今月の聖書勉強

「神格-御父」

4

聖書の教え

### 朝のマナ

「わたしたちの品性を通してキリストを映す」

9

キリストを映して

### 現代の真理

「第三天使と健康改革」

72

三重のメッセージ-第三天使のメッセージ-

### 力を得るための食事

「カシューチーズのピザトースト」

82

### お話コーナー

「信仰の跳躍」

84

#### 教会

##### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX: 0494-40-1045

##### 【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

##### 【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

#### アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：[support@4angels.jp](mailto:support@4angels.jp)

発行日 2014年9月30日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover and on page 7

## 「神のすべての制度が回復される」

ゼルバベル、エズラ、ネヘミヤの指導のもとに、帰還した捕囚たちが行った回復と改革の働きは、この地上歴史の最後の時代に行われるべき、霊的回復の働きの情景を示している。イスラエルの残りの民は、敵の襲撃にさらされた弱い民であった。しかし神は、彼らによって、神ご自身とその律法についての知識を地上に示そうとなさった。彼らは真の礼拝の擁護者であり、聖なる言葉の保管者であった。彼らは神殿を再建し、エルサレムの城壁を建設したときに、様々な経験をしたのである。彼らは強力な反対に当面しなければならなかった。この工事の指導者たちの負った荷は、実に重かった。しかしこの人々は、神が真理に勝利をお与えになることを信じつつ、揺るがぬ確信と謙遜な精神と、神に対する固い信頼をもって前進した。ネヘミヤはヒゼキヤ王のように、「固く主に従って離れることなく、主が……命じられた命令を守った。主が彼と共におられた」（列王紀下 18:6,7）。……

「彼らはいにしえの荒れた所を建てなおし、さきに荒れすたれた所を興し、荒れた町々を新たにし、世々すたれた所を再び建てる。」「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う。これは主の口から語られたものである。」（イザヤ 61:4,58:12,13,14）。

終末時代に、神のすべての制度が回復される。人間が安息日を変更したときにできた、律法の破れが回復される。神の残りの民は改革者として世の前に立ち、神の律法がすべての永続的改革の基礎であって、第四条の安息日は創造の記念であり、常に神の力を思い起こさせるものであることを、示さなければならない。彼らは明白な言葉で、十誡のすべての戒めに服従する必要を示さなければならない。彼らはキリストの愛に動かされて、キリストと共に力を合わせて、荒れすたれた所を復興しなければならない。彼らは、破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者、とならなければならないのである（イザヤ書 58:12 参照）。（国と指導者下巻 277, 278）

聖書の教え I

# 1 章 神格

「主、イスラエルの王、イスラエルをあがなう者、万軍の主はこう言われる、わたしは初めてあり、わたしは終りである。わたしのほかに神はない。」「地の果なるもろもろの人よ、わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。わたしは神であって、ほかに神はないからだ」(イザヤ 44:6, 45:22)。

聖書は唯一の神について語っています(申命記 4:6, コリント第一 8:4)。ヘブル語では、神という言葉はしばしば複数形で用いられています(複数形は Elohiym。これに対して単数形は Elowahh)。聖書によれば、神格(創世記 1:1, 26; 使徒行伝 17:29; コロサイ 2:9)は、聖なるお三方一御父、御子、聖霊一から成り、一つになって共に働いておられます(イザヤ 48:16, 17; マタイ 3:16, 17; 28:19, ヨハネ 14:16, 26; 15:26; コリント第二 13:14; エペソ 2:18, ユダ 20, 21)。

神の存在を信じるわたしたちの信仰は、神ご自身が示しておられる証拠に基づいています。神のみ手はいたるところにあります—自然の中に、一連の歴史の中に、わたしたちの個人的な経験の中に、そして何よりもこのお方のみ言葉、聖書の中にあります。これは証拠を自ら確かめたいと願うすべての人が認めることができます(ヨブ 11:7, 歴代志下 15:2, エレミヤ 29:13; マタイ 5:8; ローマ 1:20, コリント第一 2:14, 15)。

神の特質のいくつかは次の通りです。

永遠：詩篇 90:2, イザヤ 40:28; ローマ 1:20

不死：テモテ第一 1:17; 6:15, 16

罪深い人間は見る事ができない：ヨハネ第一 4:12; テモテ第一 1:17

偏在(至る所に臨在しておられる)：詩篇 139:7-12; エレミヤ 23:24

全知(すべてをご存知である)：サムエル上 16:7; 詩篇 139:2-4, ヘブル

4:13, ヨハネ第一 3:20

全能(すべてが可能である) : ヨブ 37:23; 38:1-41; 42:2; 詩篇 33:6-9; マタイ 19:26

不変(変わらない) : 詩篇 33:11; マラキ 3:6; ヤコブ 1:17

聖 : レビ記 19:2; ヨシュア 24:19; 詩篇 99:9; ペテロ第一 1:16

義 : エズラ 9:15; エレミヤ 23:6; ダニエル 9:7; 詩篇 7:9

憐れみ深い : 出エジプト記 34:6; 詩篇 103:8; 哀歌 3:22; ミカ 7:18

善 : 出エジプト記 33:19; 詩篇 34:8; マタイ 19:17; ローマ 2:4

真理 : 申命記 32:4; 詩篇 31:5; イザヤ 65:16

愛 : ヨハネ 3:16; ヨハネ第一 4:7-11

「神のみ言葉の中に与えられている神に関する啓示は、わたしたちの研究のためにあるもので、これは理解しようと努力してよいものである。しかし、その限界を越えて、推測に走ってはならない。神の性質に関して臆測に疲れはてるまで最高度に知能を労したところでこのような努力はむだである。この問題は解決するために、わたしたちに与えられているのではなく、いかなる人間の頭脳も神を理解することはできない。だれも神の性質に関して思索をほしいままにしてはならない。このことについては沈黙が雄弁である。全知の神は議論されるべきおかたではない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 405, 406)

「御父は地上の事柄によって描写することはできない。御父は満ちみちた神格がかたちをとったお方であり、死すべき人間の目で見ることができない。御子は満ちみちた神格があらわされたお方である。神のみ言葉はこのお方を「神の本質の真の姿」だと述べている(ヘブル 1:3)。『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである』(ヨハネ 3:16)。ここに御父の個性が表わされている。

キリストが昇天後に送ると約束された慰め主は、満ちみちた神格であられる聖霊であり、キリストを個人的な救い主として受け入れ信じるすべての人への神聖な恵みの力を表して下さった。これらの天のお三方は生きたお方であり、この偉大なお三方のみ名—御父、御子、聖霊—によって、キリストを生きた

信仰によって受け入れる人々はバプテスマを受ける。そして、これらの権力者は、天の従順な臣民がキリストにある新しい命を生きるために努力するときに協力して下さるのである。」(伝道 614, 615)

「神は霊であられる。しかし、このお方は個性のある存在であられる。なぜなら、人は神のみかたちに創造されたからである。」(教会への証 8 巻 263)

「キリストは、わたしの羊はわたしの声を聞いて、罪のかきねから出てきてわたしに従う、と言われる。キリストが働かれたように、あなたも働かなければならない。やさしさと愛のうちに、誤りに陥っている者を正しい道に導くよう努めなければならない。これには大変な忍耐と寛容と、絶えずキリストの許しの愛を表すことが求められている。日ごとに救い主の同情が表わされなければならない。このお方が残された模範に従わなければならない。このお方はご自分の罪のない性質に、わたしたちの罪深い性質をおとりになった。それはこのお方が誘惑されている人々をどのように助けるか知るためであった。」(医事伝道 181)

「誤解されやすいキリストの人性に関連するすべての疑問を避けなさい。真理は憶測のわたちのすぐそばにある。キリストの人性を取り扱うとき、あなたの言葉が示唆する以上の意味にとられることがないように、またそれによって神性と結合しているこのお方の人性についてははっきりとした見識を失ったり、曇らせたりすることがないように、非常に注意深くすべての断言を慎まなければならない。このお方の誕生は神の奇跡である。なぜなら、御使が次のように言ったからである。『見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう。そこでマリヤは御使に言った、どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに。御使が答えて言った、聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう』(ルカ 1:31-35)。(SDA バイブル・コメント [E・G・初作・コメント] 5 巻 1128)

## A. 御父

御父は第一位の神格であります(マタイ 3:17; 11:25; ヨハネ 14:28; 15:1, 9; 使徒行伝 1:7; コリント第二 1:3; ヘブル 1:1-13; ヤコブ 1:17)。

キリストと聖霊を通して、御父は万物の創造主であられ、支え主であります(マラキ 2:10; ヘブル 1:1-3; コロサイ 1:14-16; ヨハネ 1:3; ヨブ 26:13; 33:4; 詩篇 104:30)。

神はキリストを個人的な救い主として受け入れ、そのすべての戒めに従うすべての者の御父であります(マタイ 5:48; 6:9; ヨハネ 1:12, 13; 20:17; ローマ 8:15-17; コリント第二 6:17, 18; ヨハネ第一 3:24)。

もっとも顕著な御父の特質—すなわち救いの計画の動機となったもの—は、このお方の愛です(ヨハネ 3:16; ヨハネ第一 4:8-13, 16)。このお方の愛はもし聖霊を通してこの方がわたしたちのうちに住まれるなら、わたしたちのうちに表されるのです(ヨハネ 14:16, 23; ローマ 8:14; ヨハネ第一 4:16)。

「イエスは天の父をわれらの父よ、と呼ぶように教えておられる。主はわたしたちを『兄弟と呼ぶことを恥とされない』のである(ヘブル 2:11)。救い主は熱心に、喜んで、わたしたちを神の家族の一員として迎えようとしておられるので、神に近づく時に用いる最初のことばとしてわたしたちと神との関係を保証する『われらの父よ』ということばを述べておられる」(祝福の山 129)。

「日の老いたる者とは、父なる神のことである。詩篇記者は、『山がまだ生れず、あなたがまだ地と世界とを造られなかったとき、とこしえからとこしえまで、あなたは神でいらせられる』と言っている(詩篇 90:2)。万物の根源であり、すべての律法の源であられるおかたが、審判をつかさどられる。」(各時代の  
大争闘下巻 210, 211)



# キリストを映して

*Reflecting CHRIST*



10月 「わたしたちの品性を通してキリストを映す」

10月1日

## 真の品性は内から輝き出る

「あなたがたは、世の光である。」(マタイ 5:14)

「あなたがたは、世の光である」(マタイ 5:14)。ユダヤ人は、救いの恩恵を自国民だけに制限しようと考えた。しかしキリストは、救いは日光のようなものであることを彼らに示された。それは全世界のものである。聖書の宗教は、本の中や、教会の壁の内側にとじこめておかれるものではない。それは、自分自身のために時々とり出して、それからまた大事にしまいこんでおくものでもない。それは、日常の生活をきよめ、どんな実務上の取引にも、またわれわれのどんな社交関係にもあらわされるのである。

真の品性は、外部から形づくられて着せられるものではなく、内部から輝き出るものである。もしわれわれが人を義の道にみちびこうと望むなら、義の原則がわれわれ自身の心のうちに宿っていないとてはならない。われわれの信仰告白は、宗教の理論を公言するかもしれないが、真理のこぼれを示すものは、われわれの実際の敬虔さである。矛盾のない生活、きよい行状、変らない誠実、積極的で情深い精神、敬虔な模範—こうしたものが世に光を伝える手段である。(各時代の希望中巻 11, 12)

太陽が夜の陰を追い払い、世界を命に目ざめさせながら愛の使いをはたしていくように、キリストに従う者たちは、誤謬と罪の暗黒の中にいるものに天の光をまき散らしながら、自分の使命を果たすために出て行かなければならない。

輝かしい朝の光の中に、周囲の丘に点在する町々や村々がくつきりと浮かび出た。その光景は人々の注目をひきつけずにはいなかった。イエスはその町々を指さして、「山の上にある町は隠れることができない」と言われた。イエスは、さらにつけ加えて「また、あかりをつけて、それを柀の下におく者はいない。

むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照させるのである」と言われた(マタイ 5:14, 15)。

イエスのみことばに耳を傾けていた者の大多数は農夫や漁師であった。彼らの粗末な家には一つの部屋しかなく、一つのあかりが燭(しょく)台の上にあって、家の中のすべてのものを照らしていた。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」とイエスは教えられた(マタイ 5:16)。

キリストから輝きでる光のほかには、墮落した人類を照らす光は、過去にもなかったし、またこれからも決してないのである。救い主イエスは、罪のうちにある世の暗黒を照らす唯一の光である。キリストについて「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった」と書かれている(ヨハネ 1:4)。主の命を受けることによってのみ、主の弟子たちは光を掲げる者となることができたのである。魂のうちにあるキリストの命、品性にあらわされたキリストの愛が彼らを世の光としたのである。(祝福の山 48, 49)

10月2日

## 世は高尚な品性の人々を必要としている

「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。あなたがたが知っているとおりに、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。」(コロサイ 3:23, 24)

真の教育は、科学的な知識や学問的な素養の価値を軽んじない。しかしそれは、知識よりも能力を、能力よりも善を、知的な素養よりも品性を重んじる。世は、広い知識をもった人間よりも高貴な品性を備えた人物を必要としている。才能が堅固な原則によって支配された人物を世は求めている。

「知恵の初めはこれである、知恵を得よ。」(箴言 4:7)「知恵ある者の舌は知識をわかち与え」とある(箴言 15:2)。真の教育は、この知恵を受ける。それは、われわれの能力と素養の一つだけでなく、その全部を最もよく用いることを教える。このように真の教育は自分自身と、社会と、神に対する義務の全範囲にわたっているものである。

品性を築くことは、人類に任せられた最もたいせつな働きであって、今日ほどこれについて熱心に研究しなければならない時はかつてなかった。これほど重大な問題に当面した時代はこれまでになく、また青年男女が今日ほど大きな危機に直面したこともかつてないことであつた。……

真の教育においては、利己的な野心とか、権勢欲とか、人類の権利と必要を無視するといったような、世の災いとなるものはすべて否定される。神はひとりびとりのために人生の計画をお持ちになっている。各人はそのタラントを最大限に進歩させるべきで、あたえられた天分が多かろうと少なかろうと、忠実にタラントをみがくことによって、その人は尊敬に値する人物となることができる。神のご計画の中には利己的な競争の余地はない。「互にはかり合った

り、互に比べ合ったりしているが、知恵のないしわざである」とある（コリント第二 10:12）。すべてのことは、「神から賜わる力」をもってなされなければならない（ペテロ第一 4:11）。……

品性を築くための真の基礎と型とは、どんな時代にあってもまたどんな国にあっても、同じである。「心をつくし、……自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という神の律法（ルカ 10:27）—救い主のご品性と一生に現わされているこの大原則こそ、ただ一つの堅固な基礎であり、ただ一つの安全な道しるべである。……

神の戒めに従うことについて、「これは、もろもろの民にあなたがたの知恵、また知識を示す事である」と、イスラエルに言われた言葉は、今もなお変わらず真実である（申命記 4:6）。

ここに個人の誠実、家庭の純潔、社会の幸福と国家の安定のための唯一の防壁がある。人生の困苦と危険と要求の争いの真ただ中であって、安全で、しかも確実なただ一つの法則は神のみ言葉を行なうことである。（教育 266 ～ 270）

10月3日

## わたしたちはキリストの愛を反射すべき

「イエスはまた彼らに言われた、『安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす。』」（ヨハネ 20:21）

わたしたちは真理をイエスのうちにあるがままに他の人々に提示することができるように、それを知って、正しく評価することを熱心に求めるべきである。わたしたちは自分自身の魂の価値を正しく評価する必要がある。そのとき、今のように自分の一連の行動に関して無頓着になることはない。わたしたちはこの上なく熱心に神の道を知ること求めたいのである。利己心とは反対の方向へ働き、自分たちがキリストのみかたちにしたがって形づくられ、形成されるように、わたしたちの絶えざる祈りはキリストの思いをもつことができるようにということである。わたしたちがこのおかたのみすがたに変えられていくのは、イエスを仰いで、このお方のうるわしさを眺め、自分たちの目をしっかりとこのお方に留めておくことによってである。このお方はご自分の道を守り、ご自分のみ旨を行い、真理に歩むすべての者に恵みを与えてくださる。……

わたしは教会の名簿に価値ある教会員として名が登録されている人々に訴える。キリストの徳を通して、本当に価値ある者となりなさい。憐れみと真理と神の愛は、へりくだり悔い改める魂に約束されている。……

全天は、この愛、すなわちこれほど広く、これほど深く、これほど豊かにして満ちみちた愛がわたしたちの主イエス・キリストの恵みを知った人々に提示されるときに、彼らが非常に無関心で冷たく、心動かされないのを見て、驚きに満たされている。……

真理の無限の宝は各時代にわたって積み上げられてきた。どのように表してみてもこれらの甚大な資源の規模や豊かさを正しくわたしたちに印象づけることはできない。それらは感謝する人々が要求するのを待っている。これらの

真理の宝石は、神の残りの民によって集められ、彼らによって世に与えられるべきである。しかし、自己満足と魂の強情は、祝福された宝を拒む。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」。このような愛は、測ることもできなければ、表現することもできない。ヨハネは世に「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」と呼び求めている。それは人知を超える愛である。

満ちみちた犠牲において、何一つ差し控えられてはいない。イエスはご自身をお与えになった。神は、キリストがわたしたちを愛されたように、ご自分の民が互いに愛することを目的としておられる。彼らはこの愛のために魂を教育し、訓練すべきである。彼らは自分自身の品性においてこの愛を反射し、それを世に反映させるべきである。キリストの満ちみちた徳がこのお方の恵みにあずかる者となった人々によって世に提示されること、……各自はこれを自分の働きだとみなすべきである。彼らはキリストが御父のためになされたことを、キリストのためになすべきである。それはすなわち、このお方のご品性を表すことである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1890年12月23日)

10月4日

## 神だけが心を新たにすることが おできになる

「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:13)

わたしたちが理解しているよりもはるかに、わたしたちが携わっている争闘において危険にさらされている問題を理解する必要がある。わたしたちはもつと完全に神がこの時代のために与えてくださった真理の価値と、自分たちの思いが大欺瞞者によってそれらの真理からそらされてしまうことを許す危険性を理解する必要がある。

わたしたちの贖いのために要求された犠牲の無限の価値は、罪が恐るべきほど邪悪であるという事実を明らかにしている。罪を通して、人間という生命体全体が狂わされ、思いはゆがめられ、想像は墮落した。罪は魂の機能を低下させた。外からの誘惑が心の内に反応する琴線を見つけ、足は知らず知らずに悪へ向かう。

わたしたちのための犠牲が完全であったように、罪の汚れからのわたしたちの回復も完全でなければならない。律法が容赦する悪の行為はない。律法の有罪宣告を免れる不義はない。キリストの生涯は律法のすべての規則の完全な成就であった。このお方は「わたしがわたしの父のいましめを守った」と言われた(ヨハネ 15:10)。このお方の生涯は従順と奉仕のわたしたちの標準である。

神だけが心を新たにすることがおできになる。「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:13)。しかし、わたしたちは次のように命じられている、「自分の救の達成に努めなさい」(同 12 節)。

わずかな弱々しい時たまの努力では、悪を正すことも品性における改革をなすこともできない。……自己の征服のため、また聖潔と天のための奮闘は一生涯の奮闘である。継続的な努力や持続的な活動なしに、神聖な生活における進歩や、勝利者の冠の獲得はない。

人が高い状態から落ちたという最も強力な証拠は、戻るのにこれほどの代価が必要だという事実である。戻る道は、一インチごとに毎時間激しく戦うことによつてのみ得ることができる。人は意志の一瞬の行為によつて、悪の力のうちに自らの身をおくかもしれない。しかし、これらのかせを打ち破り、より高く、聖なる生涯を得るためには、一瞬の行為以上のものが要求される。目的が形成され、働きが始められるかもしれない。しかし、それを達成するには苦勞と時間と辛抱、忍耐、また犠牲が要求される。

無数の誘惑に囲まれているのだから、わたしたちは固く抵抗しなければならぬ。さもなければ打ち負かされてしまう。……パウロの聖化は自己との持続的な戦いの結果であつた。彼は「わたしは日々死んでいる」と言った(コリント第一 15:31)。彼の意思と願いは毎日、義務や神の御旨と戦つた。自分自身の性質にとってどれほど十字架につけるようなものであつても、彼は傾向に従う代わりに、神のみ旨に従つた。神はご自分の民を一歩ごとに導かれる。(教会への証 8 卷 312, 313)

10月5日

## 高尚さの最高の証拠

「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。」(箴言 16:32)

〔怒りをおそくする〕者は自己、すなわち人が立ち向かわなければならない最も強力な敵に打ち勝った者である。クリスチャンの高尚さの最高の証拠は、自制である。虐待の嵐のただ中で動かされることなく立つことができる人は神の英雄の一人である。

自分の心を治めるとは、自己を規律の下に保つことであり、悪に抵抗することであり、神の偉大な義の標準によってすべての言葉と行いを制御することである。自分の心を治めることを学んだ人は、わたしたちが日々さらされるすべての侮辱、拒絶、いらだちを超越し、これらのことが自分の精神に陰うつを投げかけることはなくなる。

聖化された理性の王のような力が神聖な恵みによって支配され、人間の生涯に統治権を握ることが神のご目的である。自分の心を治める人は、この力を持っている。

幼年時代、青年時代に品性は最も感化を受ける。自制の力はこの時期に得るべきである。炉辺や家族の団欒のときに永遠にわたって続く結果をもたらす感化力が発揮される。生来授かるどんな資質よりも、幼年時代に築かれた習慣が、人を人生の戦いの勝利者にするか、敗北者にするかを決めるのである。

言葉を用いるのに、おそらくは、老いも若きも自分自身の性急で短気な言葉ほど軽く見逃す過ちはないであろう。彼らは「つい出てしまって、そういう意味ではなかったのです」と言いさえすれば十分言い訳になると思っている。しかし、神のみ言葉はそれをそのように軽く扱ってはいない。……

人生の腹立ちや頭痛やいらだちの大半は、抑制されていない気質によるも

のである。一瞬の性急で感情的で不注意な言葉によって、一生の悔い改めでも帳消しにできない悪がもたらされるかもしれない。ああ、助けと癒しをもたらすことができたはずの人々の荒々しい性急な言葉によって、なんと心が砕かれ、友が疎遠になり、人生が破船したことか！

働きすぎが時には自制を失う原因となる。しかし、主は決して急いだ複雑な動きを強制なさることはない。多くの人々は憐れみ深い天来の友が一度も彼らの上におかれたことのない重荷を自ら集める。このお方が彼らにさせようと意図されたことのない義務が彼らを乱暴に互いに追い回す。神はわたしたちが重荷をたくさんかかえて重い負担となり、心も頭脳も疲弊し、摩擦といらだちと小言が出るようになるとき、ご自分のみ名に栄光を帰すことはないことを悟るよう望んでおられる。わたしたちは主に信頼し、このお方が与えてくださった分だけの責任を負い、こうして自分の心を純潔にうるわしく同情深く保つべきである。(ビュー・アンド・ワールド 1907年10月31日)

10月6日

## キリストを通しての自制

「悟りは人に怒りを忍ばせる、あやまちをゆるすのは人の誉である。」(箴言 19:11)

沈黙にはすばらしい力がある。短気な言葉が語られたとき、やり返してはならない。怒っている人に返答して語られる言葉はたいいむちのように働き、気質をさらに大きな烈火の怒りへとかき立てる。しかし、沈黙によって迎えられる怒りは速やかに消滅してしまう。クリスチャンは自分の舌にくつわをはめ、性急で短気な言葉を語らないと固く決心しよう。くつわをはめられた舌をもって、彼は自分が通るように召されたすべての忍耐の試練において勝利者となることができる。

人は自分自身の力では自分の心を治めることはできない。しかし、キリストを通して彼は自制を得ることができる。このお方の力の内に彼は自分の思想と言葉を神のみ旨に服従させることができる。キリストの宗教は感情を理性の支配下に入れ、舌を律する。その感化力の下で性急な気質は征服され、心は忍耐と親切に満たされる。

天地において一切の権威をもっておられるお方にしっかりつかまっていなさい。忍耐と平静を表すことにたびたび失敗しても、苦闘をあきらめてはならない。もう一度、次はもっと堅固に、あらゆる挑発の下でも忍耐強くあることを決心しなさい。そして自分の目を決してあなたの聖なる模範者から離してはならない。

ご自分の子らに対する神の理想は人間の最高の思想が及ぶ以上に高い。「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」。このご命令は約束である。贖いの計画はサタンからのわたしたちの完全な回復を意図している。キリストはいつも悔いた魂を罪から引き離し

てくださる。このお方は悪魔のわざを滅ぼすために来られた。そして、このお方はすべての悔いた魂が罪を犯すことから守られるように聖霊が与えられるように備えをなされた。

誘惑者の手段は、一つでも悪い行為に対する言い訳になると考えてはならない。サタンはキリストに従うと公言する人々が自分の品性の醜さを言い訳するのを聞くと狂喜する。罪へ導くのはこれらの言い訳である。聖なる気質、キリストのような生涯はすべての悔いて信じる神の子の手の届くところにある。(ビュー・アソド・ハルト 1907年10月31日)

キリストは罪びとの救いのためにご自身をお与えになった。罪をゆるされ、イエスを愛する人々はキリストに結びつけられる。彼らはキリストのくびぎを負う。このくびぎは彼らを窮屈にしたり、信仰生活を不満な骨折りにしたりするためではない。それはむしろクリスチャン生活をよろこびと楽しみに満ちたものとするものである。「み子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るため」に、ひとり子を世に賜うて死におつけになった神のみこころを深く心に思つて、よろこびに満たされるのである(ヨハネ 3:16)。(青年への使命 133)

10月7日

## あなたの意志を主の側に置きなさい

「世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。」  
(ヨハネ第一 2:17)

純潔な宗教は意志と関係がある。意志は人の性質の中で支配的な力を持ち、他のすべての能力を支配する。意志は趣味や好みではなく、それは決定的な力であり、人の子らの内部に働いて、神に従うか、それとも従わないかのどちらかに至らせる。……

あなたは自分の衝動や感情を思うように抑制できないかもしれない。しかし意志を支配し、一生を全く一変させることができる。意志をキリストに従わせることによって、あなたの生涯はキリストとともに神のうちにかくれ、すべての「支配と権威」にまさる神の力と結合するのである。あなたは、あなたを自身に力に強く結びつけられる神から力を受け、新しい光、生ける信仰の光を持つことができる。しかしそれにはあなたの意志が神の意志と協力しなければならない。サタンがあなたをわなにかけて滅ぼそうとしてたえず働いている友だちの意志に従ってはならない。……

意志を神の側に強く保つときに、いつさいの感情はイエスの意志に従う。そのとき、あなたは自分の足が堅固な岩の上に立っていることを知るであろう。時には、あなたの持っている意志力を、ぎりぎりまで必要とすることがあるであろう。しかしあなたのために働いているのは神であり、あなたは品性形成の過程から栄えある器として生れて来るのである。

信仰について語りなさい。神の側に立ち、敵の側に足を踏み入れなければ、神はあなたを助けてくださる。神はあなたが自分の力ではできないところを成してくださる。その結果あなたは「レバノンの香柏のように」なる。あなたの生活は尊くなり、あなたは神にあつてわざを行うようになるであろう。あなたのう

ちには力と熱心と単純さがあって、あなたは神のみ手のうちにみがかれた器となることができるであろう。

神にあるよろこびと楽しみの秘訣を知りたいと思えば、毎日真理の泉から飲まねばならない。しかし、あなたの意志があなたのすべての行為の泉であることを忘れてはならない。人の品性を形づくる上に非常にたいせつな要素であるこの意志は、人類が墮落した時にサタンの支配に帰し、それ以来サタンは絶えず人のうちに働いて、サタンの思うがままに意志をもたせ、行わせ、人を全くの不幸と滅びに至らせているのである。

しかしとし子イエスを罪のいけにえとして与えられた神は、その限りない犠牲のゆえに、神の統治の一つの原則を破ることなく、こう仰せになることができるのである。「あなた自身をわたしに従わせなさい。あなたの意志をサタンの支配からとり去ってわたしに与えなさい。そうしたらわたしはあなたの意志を占領し、わたしの思うがままにあなたのうちに働いて志を立てさせ、わざを行わせることができる」と。神がキリストの心をあなたにお与えになるとき、あなたの意志はキリストの意志のようになり、あなたの品性はキリストのような品性に一変させられるのである。(青年への使命 146～149)

10月8日

## 日ごとの祈りは、 恵みにおける成長に不可欠

「万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。」(ペテロ第一 4:7)

わたしたちが神に受け入れられる品性を発達させようと思えば、自分の宗  
教生活において正しい習慣を形成しなければならない。日ごとの祈りは恵み  
における成長にとって、また霊的命そのものにとって、一時的な食物が身体  
的健康のために不可欠であるように不可欠である。わたしたちは思想をしば  
しば祈りのうちに神のみ許へ上げることになれるべきである。もし思いがさま  
よったら、わたしたちはそれを連れ戻さなければならない。辛抱づよい努力に  
よって、習慣はついに容易になる。わたしたちはキリストから離れては一瞬たり  
とも安全ではいられない。一步ごとにこのお方のご臨在が伴うことはできるが、  
それはただこのお方ご自身が制定された条件に従うことによるのみである。

宗教が人生の重大な課題とされなければならない。他のことはすべて二の  
次としなければならない。わたしたちの魂、体、霊のすべての力がクリスチャ  
ンの争闘に従事しなくてはならない。力と恵みを求めてキリストを仰ぐなら、  
わたしたちはイエスがわたしたちのために死なれたのと同じくらい確実に、勝利  
を得るのである。

わたしたちはキリストの十字架にもっと近く来なければならない。十字架の  
足下での悔悟こそ、わたしたちが学ばなければならない最初の平安の教訓で  
ある。イエスの愛一だれがそれをはかり知れよう。母親の愛に限りなくまさる  
優しく自己を否定する愛である。もしわたしたちが人間の魂の価値を知りたい  
ならば、生きた信仰のうちに十字架を見なければならない。それから、永遠  
にわたって贖われた者たちの科学となり歌となる研究を始めなければならな

い。わたしたちの時間とタラントは、わたしたちの贖いのために支払われた贖い代の大きさによってのみ、計り知ることができる。わたしたちがこのお方から自分たちの愛情と奉仕を差し控えることによってこのお方ご自身のものを奪うとき、神に対してなんとという忘恩を表すことであろう。わたしたちのためにすべてを犠牲にして下さったお方にわたしたち自身をお捧げすることは大きすぎるであろうか。キリストが差し出して下さる—「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である」との不朽の誉れよりも世の友情を選ぶことができるであろうか。……

クリスチャンの恵みを得るために、足し算の計画で働いている……人々には、神が彼らにご自分の聖霊というたまものを与えて下さるときに、掛け算の計画で働いて下さるという保証がある。

ペテロは尊い信仰を得ている人々に、「神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように」と述べている。神聖な恵みによって、望む者はみな地上から天へと輝くはしごの段を上り、ついに「とこしえの喜びをいただき、歌うたいつつ」門をくぐって都に入ることができる。(ビュー・アソド・ハルド 1887年11月15日)

10月9日

## 神の力と人間の努力

「すべての人を救う神の恵みが現れた。そして、わたしたちを導き、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し」(テトス 2:11, 12)

キリストが聖所を清めておられる間に、地上の礼拝者たちは注意深く自分たちの生活を省みて、自分の品性を義の標準と比較するべきである。彼らが自分たちの欠点を悟るとき、サタン誘惑に抵抗し、標準の完全へ到達する道徳的力を得ることができるよう神の御霊の助けを求めるべきである。彼らは人間にはとても耐えることができないほど強いと思われた誘惑そのものに対して勝者となることができる。なぜなら、神の恵みが彼らの人間の努力と結びつくので、サタンは彼らに打ち勝つことができないからである。

全天は神が墮落した男女を助けて、彼らが神の望んでおられる者になれるように神がお命じにあることは何でもする用意をして、関心をもって見ている。神はご自分の子らのために働いて下さるが、彼らの協力なくしてはなさない。彼らは不屈の精力と、自分に可能な限り最高のものになりたいとの絶えざる願いを持たなければならない。

彼らは聖なる天国に見合う自分たちの力を培い、品性を発達させることを求めるべきである。その時初めて、神の僕は世において明るく輝く光となるのである。そのとき彼らは精力を自分たちのクリスチャン生涯に持ちこむ。なぜなら、彼らは自分たちのあらゆる力を仕事に注ぎ、自分たちが上の宮廷で輝くことができるように彼らを掲げ、精練し、清めるためになされてきた努力に応えるからである。彼らは自分たちのすべての力を神の御霊の支配下に置くのである。彼らは神のみ言葉を研究し、このお方の道を示し、励まし、強め、彼らをその宗教経験において前進させるためのみ声を聞くのである。

彼らは子供のように、サタンの誘惑に道をそらされることはない。彼らは自分自身の同情に訴えることなく、自己を否定する。なぜなら、彼らは英雄的な精神の人だからである。彼らは偉大にして尊い神のみ言葉の真理を蓄えている。それらに養われて強く、キリストにあって均整のとれた男女、神のむすこ娘へと成長する。

彼らが熟考している真理の偉大さにより、思いが広げられ、品性は高められる。彼らは神のみ言葉の理解において未熟者でもなければ、宗教経験における小人でもない。真理の敵との戦いは、彼らを打ち砕くこともなければ、彼らの精力を弱めることもない。ただそれは、救うのに力強いお方にさらに近く行かせるだけである。彼らは自分たちのあらゆる機能に能力を与える訓練を受ける。天は共鳴と協力のうちに彼らに近づき、彼らは実際に、世に対して、み使いに対して、また人々に対して見世物となる。なぜなら、彼らは純潔さ、目的の強さ、彼らの堅固さ、この世における有用性のゆえに、品性が際立っているからである。(ビュー・アンド・ハルト 1890年4月8日)

10月10日

## キリストはご自分の完全なご品性を わたしたちに着せて下さる

「自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげることがよい。」  
(ローマ 6:13)

み言葉と教理において働くようにと神に召された人々は、常にキリストの学校で学ぶ者であるべきである。……力から力へと進んでいく重要性を感じない者は、わたしたちの主なる救い主イエス・キリストの恵みと知識において成長することがない。

全天は今日地上で行われている働きに関心を持っている。御使たちは、神との共労者として役割を果たす誉れを受けている人々に関心をもって見ている。キリストの僕たちが救うのに力強いお方のご臨在を自覚するとき、神の恵みの力のゆえに神への感謝に満たされる。……自分のすべてをキリストに捧げる人々は、どのようにして魂を勝ち得るかを学ぶ。なぜなら、彼らは世の賤い主と密接なつながりを持っているからである。……

イエスは世の光であられる。そしてあなたはこれのお方のご生涯に従って自分の生涯を形成しなければならない。あなたは強く均整のとれた美しい品性を形作るのにキリストのうちに助けを見出す。サタンはそのような品性から輝き出る光を無効にすることはできない。主はわたしたち一人ひとりが必要な働きを持っておられる。このお方は人間の誉れやお世辞の感化によって支えられるような備えはしてこられなかった。このお方はすべての魂が主の力のうちに立つようにと考えておられる。このお方はご自分の最上の賜物、すなわちご自分のひとり子さえもわたしたちに与えて下さった。それは、神のみ国の家にふさわしいご自身の品性という完全を着せて下さることによって、わたしたちを引き上げ、高尚にし、整えて下さるためであった。イエスはご自分に従う人々が

生きることを期待しておられるとおりに生きるためにこの世に来て下さった。もしわたしたちが自己放縦で、怠け者であるために神のすばらしい働きに協力するための熱心な努力を払わないとしたら、この世の生涯でも、将来の不死の生涯でも、損失にあうのである。

神はわたしたちが絶望的なやり方ではなく、強い信仰と希望を持って働くように意図しておられる。わたしたちが聖書を探り、目が開かれて、イエスを信じる者が一人も減びないで永遠の命を受けるために、イエスをこの世にお与えになった御父の驚くべきへりくだりを眺めるとき、わたしたちは言い表せない喜びと満ちみちた栄光に喜ぶべきである。

教育によって得られるすべてのものを、わたしたちが真理の進展のために用いるようにというのが神のご計画である。真実な命ある信心は、キリストの十字架が世の前に掲げられ、魂の価値が十字架の光のうちに明らかにされるために、生活と品性から反射しなければならない。天のパンに養われることによって、霊的な力を得ることができるよう、わたしたちの思いが聖書を理解するために開かれなければならない。(レビュー・アソド・ヘラルド 1890年4月8日)

10月11日

## 品性は力である

「わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。」(ローマ 5:1, 2)

キリストは、品性を完成することがやさしいことであるとは、保証しておられない。高潔で円満な品性というものは、親から遺伝的にうけつぐものではない。また、偶然、ころがり込むものでもない。高潔な品性は、キリストの功績と恵みによって、人びとが努力することによって得られるものである。神は、タラント、すなわち、精神の能力をお与えになる。そして、わたしたちが、品性を形成するのである。品性は、自己とのきびしい戦いによって形成される。生来の傾向に対しては、争闘に次ぐに争闘をもって当たらなければならない。わたしたちは、きびしく自己を批判して、一つとして汚点を取り除かないで放っておくようなことをしてはならない。……

神のかたちにかたどって形成された品性は、この世から来たるべき世界に持って行ける唯一の宝である。この世で、キリストの教えを受けたものは、その身につけた神の性質を全部天の住居に持っていくのである。……

完全な品性は、人を完全な行動にまで高めるから、それを確固たる信仰をもって求める者には、天使も協力して働くのである。この働きに加わっているすべての者に対して、わたしはあなたの右にあつてあなたを助けると、キリストは言われる。

人間の意志が、神の意志と協力すると、どんなことでもできるようになる。神がお命じになったことは、神の力によって完成することができる。神のお命じになることはどんなことでも、成しとげることができるのである。(キリストの

実物教訓 307)

品性は力である。真実で無我の信心深い生活の無言のあかしは、どんな人をも感化しないではおかない力を持っている。わたしたちの生活の中に、キリストの品性をあらわすことによって、わたしたちは、救霊の働きをキリストと共にするのである。わたしたちが、キリストと協力できるのは、わたしたちの生活に、キリストの品性をあらわすことによるのみである。そして感化の範囲が広ければ広いほど、それだけ、善をなす範囲も広い。

神に仕えるという者が、その日常生活において、律法の原則を実行して、キリストの模範に従うとき、すなわち、何をしても、その行為によって、彼らが神を何ものよりも愛し、隣人を自分のように愛していることを示すときに、教会は、世界を動かす力をもつようになるのである。……

わたしたちは、一日、一時間、一瞬間がどんな結果を生じるかを知らないから、天の父にわたしたちの道をまかせないで、一日を始めてはならない。……わたしたちが、無意識のうちに、悪い感化を及ぼす危険がある場合、天使がわたしたちの側で、他のよい方法をとるように注意してくれて、言うべきことばを選び、わたしたちの行動を導いてくれる。こうして、わたしたちの感化は、無言で無意識のものであっても、他の人びとをキリストと天国に導く強い力となるのである。(同上 316, 317)

10月12日

## あなたの目標を高くしなさい

「目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」(ペリピ 3:14)

だれも自分は品性の欠点を治すことができないと言ってはならない。もしあなたがこの決断に至ると、たしかに永遠の命を得ることに失敗することになる。不可能はあなた自身の意志のうちにあるのである。もしあなたが望まないなら、あなたは勝利することができない。実際の困難は、聖化されていない心の墮落と神の支配に服したくない心から生じる。

すぐれた働きをするように神から資格をさずけられた人びとの多くがなぜ、なんらなすところがないかというと、彼らは、何もしようと努力しないからである。世には、なんの確かな目的もたず、なんの標準もなく一生を送っている人が、多くいる。このような人は、彼らのしわざに相応した報いを受ける。

人間は、自分が定めた標準以上には出ることができないことを記憶しなくてはならない。そこで、どんなに苦しく、克己と犠牲が要求されるときにも、標準を高くし、進歩の階段をのぼらなければならない。なにものにも妨げられてはならない。どんな人であっても、運命の網に捕えられて、どうにも身動きができないほどに、固く縛られている人はない。難局に当面した場合には、それに打ち勝つ決心がなければならない。一つの障害を打ち破ると、前に進むいつそうの能力と勇気がわいてくるものである。正しい方面に向かって断固として進むとき環境は、妨げとはならず、かえって、わたしたちの助けとなるのである。

わたしたちは、主の栄光のために、あらゆる品性の徳を養うように熱望しなければならない。品性建設のあらゆる面において、神を喜ばせなければならない。これはわたしたちにもできることである。エノクは、墮落した時代に

生存しながら、神を喜ばせた。現代にも、エノクのような人びとがいる。

どんな誘惑にも屈しなかった、忠実な政治家ダニエルのようにわたしたちも立たなければならない。わたしたちを愛し、わたしたちの罪をあがなうために、その命を捨ててくださった主を失望させてはならない。「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」と主はおおせになる(ヨハネ 15:5)。これを忘れないでほしい。もしあやまちを犯した場合には、そのあやまちを認めて、それを再びくり返さないように戒めとするならば、勝利を取めたことになる。こうして敗北を勝利にかえ、敵に乗ぜられることなく、あがない主にほまれを帰すことになるのである。(キリストの実物教訓 306, 307)

あなたの時間、あなたの感化力、あなたの能力、あなたの技能はみなすべてを与えて下さるお方に会計報告を出さなければならない。……自分が始めた仕事を辛抱づよく勝利に次ぐ勝利を得るまで続けなさい。自らを目的のために教育しなさい。ますます大いなる善を成し遂げ、それによって神の栄光を反映することができるために、最高の標準をいつも見続けていなさい。(ユース・インストラクター- 1910年1月25日)

10月13日

## わたしたちはまいたものを刈り取る

「主の僕たる者は争ってはならない。だれに対しても親切であって、よく教え、よく忍び、」(テモテ第二 2:24)

真に神とつながっている人々は、互いに不一致になることはない。調和、平和、そして愛の精神、すなわち彼らの心の内を支配しているこのお方の御霊は調和、愛、そして一致を創造する。これと反対のものがサタンの子らのうちに働く。彼らは絶えず相容れない。紛争とねたみと嫉妬が主要素である。クリスチャンの特徴は、キリストの柔和である。無限の知恵なるお方から、寛容、親切、憐れみ、そして愛が生じる。その一方、反対はイエス・キリストと調和していない心のきよくない実である。……

子供の教育、それはいったいなんという働きであろう。……もし親がもつとキリストを学び、世を学ぶことを減らすならば、もし彼らが現代の習慣や流儀を模倣することに注意を払うことを少なくし、自分の子供たちの思いと品性を神聖な模範なるお方に従って形成するために時間と骨折りの努力を払うならば、そのとき彼らは子供たちを道徳的な高潔さと共に、いかなる信任の地位にもふさわしい者とする教育の分野に送り出すことができるであろうに。……

わたしたちが刈り取る収穫は、わたしたちがまいたものである。もしあなたが不信、妬み、嫉妬、自己愛、思想や感情の苦々しさをまくならば、確かにその収穫を刈り取るようになる。これは同じものを刈り取るために龍の歯をまくことになる。

もしあなたが親切、愛、優しい思いやりを、あなたの生徒たちに表すならば、見返りに同じものを刈り取ることになる。もし教師が厳しく、批判的で、威圧的で、他の人の気持ちを感じないならば、彼らは見返りに同じものを刈り取るようになるのである。自己尊重と尊厳を保ちたいと思う人は、他の人を尊重し、

尊厳を犠牲にすることがないように注意しなければならない。この規則は、最も鈍い者、最も若く、うっかり者の学生に対しても神聖に守られるべきである。

神がこれらの一見つまらない青年たちをどのように扱われることになるか、あなたは知らない。神は過去にちょうどこのような人々を受け入れ、選んで、ご自分のために大いなる働きをおさせになったのである。このお方の御霊が心に働きかけると、電池のように働き、一見眠っているように見える機能を活発にし、辛抱づよい行動へと目覚めさせる。主はこれらの粗く、つまらない、荒削りの石を、嵐や暴風雨や暑さの火のような試練に耐える尊い材料としてご覧になる。神は人が見るようにはご覧にならない。人が判断するようには判断なさらない。このお方は心を探られる。……

主の家族の最も若い者たちは、自分たちがその造り主のみ形に創造されたこと、また自分たちの精神がキリストの精神を表わさなければならないことを印象づけられる。(原稿 2, 1881 年)

10月14日

## 主はすべての思想をご存じである

「わが子ソロモンよ、あなたの父の神を知り、全き心をもって喜び勇んで彼に仕えなさい。主はすべての心を探り、すべての思いを悟られるからである。あなたがもし彼を求めるならば会うことができる。」(歴代志上 28:9)

あなたはサタンの魅惑的な障地から離れているべきであり、自分の思いが神への忠誠からそれることを許すべきではない。キリストをとおして、あなたは嬉しくあるべきであり、自制の習慣を身につけるべきである。あなたの一つ一つの思想は、神のみ旨に服従させられるべきであり、あなたの感情は理性と宗教の支配下にあるべきである。あなたの想像力は、あらぬ空想をして、抑制や規律の努力もなしに自分勝手にするのを許すために与えられたのではない。もし思想が間違っていれば、感情も間違うようになり、思想と感情が一緒になって道徳的品性をなすのである。

あなたがクリスチャンとして自分の思想と感情を抑制するよう要求されてはいないと思定めるならば、悪天使たちの感化力の許へおかれ、彼らの存在と彼らの支配を招くのである。もしあなたが自分の印象に屈服し、自分の思想が疑い、疑惑、いらだちの通路を走ることを許すならば、あなたは死すべき人間の中で最も不幸な者の一人となる。……

人は悲しみと思いわずらいと困惑の世におかれている。ここで人はアダムとエバのように、正しい品性を発達させ、不和と混乱から調和をもたらすことができるように、テストされ、試されるためにおかれているのである。わたしたちがなすべき、わたしたち自身の幸福と他の人々の幸福に不可欠なことが多くある。キリストを通して、わたしたちは神とのつながりのうちに入れられる。このお方の憐れみは、わたしたちを継続的な義務の許へおく。このお方の恩寵を受ける価値がないと感じながらも、わたしたちはそのもつとも小さなもの

も感謝すべきである。なぜなら、あなたの持っているものもあなたの存在もみな……神に負うものだからである。このお方はあなたにある程度まで、ご自身が持つておられるのに似た力をあなたにお与えになった。そしてあなたはこれらの力を自己を高めるためではなく、このお方に栄光を帰すために発達させるべく、熱心に労するべきである。……

この地は主のものである。ここにおいて自然界は生物も無生物もこのお方のみ旨に従っているのが見られる。神は人をすぐれた存在に創造された。彼だけが神のみかたちにかたどって造られ神性にあずかることができ、創造主に協力して、このお方のご計画を実行することができる。……なんとおどろくほどに、なんとすばらしい美しさをもって自然界のすべてが形づくられていることであろう。どこを見ても、偉大な主なる芸術家の完全なみわざを見る。諸天はこのお方の栄光を宣言し、人の幸福のために形成された地は、わたしたちにこのお方の比類のない愛を語る。……わたしはこれらの神の惜しみないみ手からの祝福にあなたの注意を呼ぶ。新しい朝ごとの新たな栄光により、あなたの心のうちにこれらの神の愛の保護のしるしを感謝する賛美が呼びさまされるように。(教会への証 5 卷 310-312)

10月15日

## キリストのご臨在の日ごとの表れ

「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる。」  
(箴言 4:18)

わたしたちは注意を引く数多くの話題をしりぞけなければならない。時間を費やし、質問を呼びますが、結局何にもならない事柄がある。最高の関心は厳密な注意と精力を要求するが、あまりにもしばしば大して重要でない事柄へ費やされてしまうのである。

新しい理論を受け入れても魂に新しい命をもたらすわけではない。それ自体重要な事実や理論を知ることさえも、もし実際に用いることがなければほとんど価値はない。わたしたちは自分の魂に栄養を与え、霊的な命へ活性化させる食物を与える責任を感じる必要がある。……

わたしたちは神がわたしたちから差し控える方がよいと思われる事柄を推測するとき、神のみ旨を行っているのではない。今日研究すべき問いは、「何が真理、すなわちこの時代のための真理であり、大事にし、愛し、尊び、従うべきか」ということである。科学に献身している人々は神を見つけ出そうとするその努力において打ち負かされ、落胆してきた。彼らがこの時代に問う必要のあるのは、「自分たちの魂の救いを勝ち得ることができるようにする真理とは何か」である。

キリストはご自分の弟子たちの心のうちに特別な働きを果たすようなやり方で神を表してこられた。そしてこのお方はちょうど同じ方法でご自分がわたしたちの心のうちで働けるようにしなさいと長く訴えてこられた。あまりにも長く理論を考えてきたために救い主の模範の生きた力を見失っている者が多くいる。彼らはへりくだった自己否定の働き人としてのこのお方を見失っている。彼らに必要なのはイエスを眺めることである。日ごとにわたしたちはこのお方のご臨

在の新たな現れを必要としている。もっと厳密にこのお方の自己を捨て犠牲を払う模範に従う必要がある。

わたしたちはパウロが「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」と記した経験を必要としている(ガラテヤ 2:19, 20)。

品性の中に表現された神とイエス・キリストの知識こそ、天地において他の何ものよりも高く評価されるものである。それこそ最高の教育である。それは天の都の門を開くかぎである。キリストを着るすべての人がこの知識を持つようにというのが神のご目的である。……

すべての光線を蓄えなさい。神を慕う魂の願い一つ一つを大事にしなさい。自らに霊的な思想と聖なる交わりという教養を与えなさい。……自分の罪を悔い改め、それらを告白し、許しを見出して、わたしたちは完全な福音の信仰の真昼に至るまでキリストを学び続けなければならない。(教会への証 8 巻 316-318)

10月16日

## イエスはわたしたちが ご自分と一つになることを願っておられる

「キリスト・イエスにあっただいしているのと同じ思い(イエスのうちにある思い)を、あなたがたの間でも互に生かしなさい。」(ピリピ 2:5)

イエスをご自分に従う人々の思いから地上のかたちを消し去り、彼らに天のかたちを印象づけたいと望んでおられる。そうすることにより彼らをご自身と一つになり、そのご品性を反映し、彼らを闇からこのお方の驚くべきみ光へ導きいれられたお方を讚美できるためである。もしあなたが義の太陽のご臨在のうちに立つことが許されてきたなら、キリストの義という明るい光線をうばって隠すのではなく、あなたが他の人々にとって光となることができる。……キリストの義という尊い光を受けていながら、それに従って行動していない人々がいる。……彼らは率直な「主はこう言われる」よりも敵の詭弁を好んでいる。……

わたしたちが今日培う品性、取る態度が、将来の運命を決めている。わたしたちはみな祝福された者たちと共に光の都の内にいるか、あるいは悪人たちと都の外にいるかを選択しているのである。この地上でわたしたちの行為を支配している原則は天で知られており、わたしたちの行いは記録の書に忠実に列記されている。そこではわたしたちの品性がキリストのご命令に従ったものであるか知られている。……わたしたちは賢いおとめであろうか。……これがわたしたちの品性と態度によって今日決定している問いである。……

キリストが許されるような方法で許されるということは、単に免除してもらうのではなく、わたしたちの思いの精神が新たにされることである。主は、「わたしは新しい心をあなたに与える」と言われる。キリストのかたちが思いと心と魂そのものに押されなければならない。使徒は、「わたしたちはキリストの思い

を持っている」と言っている。神聖な力を通してのみもたらされる変化の過程がなければ、もともとの罪への傾向がそのまま心の内に残されているのであり、新しい鎖をつくり、人間の力では決して破ることのできない奴隷状態にしてしまう。……

キリストが来られるとき、天の秤が品性をはかり、純潔で聖化された聖なるものであるかどうかを決定する。……

幸福は清潔の結果であり、神のみ旨への一致である。天で聖徒になりたい者は、まず地上で聖徒でなければならない。なぜなら、この地上を離れるとき、わたしたちは自分の品性を共に携えていくのであり、つまりそれはキリストの義を通してわたしたちに与えられた天の要素のいくつかを共に携えていくにすぎないからである。……

神への完全な幸福に続く経験は、義、平安、そして聖霊における喜びである。(ビュー・アンド・ヘルド 1890年8月19日)

10月17日

## わたしたちの意のままである 神聖な恵みの宝

「彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」(ヨハネ第一 3:3)

すべて真理と義を熱心に求める人にとって、神の確かな約束により頼むことは特権である。主イエスはわたしたちが光の通路となることができるために、神聖な恵みの宝が、完全にわたしたちの意のままであるという事実を明らかにしておられる。わたしたちがキリストの恵みの富を受けるとき、他の人々に与えたいと願わずにはいられない。わたしたちの心にキリストの愛があるとき、それを伝えることが自分たちの義務であり、特権であると感じるのである。

諸天に輝く太陽はその明るい光線を命の大路や垣根の至るところへ注ぐ。それはわたしたちのような幾千もの世界のために十分な光である。そして義の太陽も同様である。このお方の癒しと喜びの明るい光線は、わたしたちの小さな世界を救うのに十分であり、創造されたすべての世界のうちに安全を確立するのに有効である。キリストは、わたしたちの天父が、地上の親が自分の子供たちに贈り物を与えるよりももっと快く、ご自分に求める者にご自分の御霊を与えて下さると宣言しておられる。

ペンテコステの日は素晴らしい機会を与えた。聖霊の注ぎにおいて、キリストの恵みの豊かさになんという証が与えられたことであろう。なぜ、より進んだ真理を信じていると主張する人々は自分たちの特権にはるかに及ばないところで生きているのであろう。なぜ彼らは自分のすることすべてに自己を混ぜるのであろう。もし彼らが自己を捨て去るならば、イエスは渴いた魂に絶えず命の川からの供給を注ぎこんで下さるのである。……

魂を聖化するのはキリストのご品性の知識における成長である。贖罪のす

ばらしい働きを識別し、感謝することによって、救いの計画を熟考している人は変化する。キリストを眺めることによって、彼は栄光から栄光へと同じすがたへ変えられていき、これは主の御霊によるのである。イエスを眺めることは、実際のクリスチャンになるまで高められ精練される過程となる。彼は型なるお方を見て、同じすがたへと成長していく。そのとき、不和や競争や紛争はなんとたやすく解決されることであろう。キリストのご品性の完全さは、クリスチャンを鼓舞する。わたしたちがこのお方をありのままに見るとき、このお方のようにになりたいという願いが呼びさまされ、これが人全体を高めるのである。なぜなら、「彼についてこの望みをいただいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする」からである。……

キリストの力は、自分の戦い、すなわち自分の人生における苦闘のうちにイエスに従うすべての人の慰めとなり、望みとなり、喜びの冠となるのである。(レビュー・アンド・ワールド 1890年8月26日)

10月18日

## 神の真理は嗜好を精練する

「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。不作法をしない。」(コリント第一 13:4, 5)

神の真理は受ける人を高め、その嗜好を精練し、判断を聖化するように意図されている。クリスチャン品性は聖なるものであるべきであり、そのふるまいは落ち着いて、その言葉には偽りがあってはならない。まもなく自分が参加したいと望んでいる社会、すなわち罪によって一度も墮落したことのない天使たちの社会を模倣するために絶えず努力すべきである。

だれ一人、キリストの御霊を持たずにクリスチャンになることはできない。そしてもし彼がキリストの御霊を持っているなら、それは親切な言葉や、精練された礼儀正しいふるまいに表されるのである。……外面の変化は内面の変化を証する。真理は聖化するものであり、精練するものである。心に受け入れられると、それは隠された力を持って働き、品性を変える。しかし、キリストに従うと公言しながら、同時に荒々しく、不親切で言葉にもふるまいにも無礼な人々は、イエスから学んでいないのである。荒々しく語り、威圧的であら捜しをする人は、クリスチャンではない。なぜなら、クリスチャンになるとは、キリストに似るということだからである。……

幸福を求めている実に多くの人々が、自分たちの望みにおいて失望することになる。なぜなら、それを間違った方法で求め、罪深い気質や利己的な感情にふけているからである。人生における小さな義務を果たし、小さな礼儀を守ることを怠ることによって、彼らは幸福が要求する原則を犯している。真の幸福は自己満足のうちにではなく、義務の道のうちに見出されるのである。神は人が幸福になることを望んでおられる。そしてその理由で、このお方は人にご自分の律法の規則をお与えになったのである。それはこれらを守ることに

って家庭でも外でも喜びを得るためである。彼が道徳的な高潔さのうちに立ち、原則に真実で、自分のあらゆる力を制するならば、みじめにはなりえない。まぎひげが神のまわりにまぎつき、心は平安と喜びに満ちて、魂は不信と墮落のただ中で繁茂するのである。

親切な言葉、気持良いまなざし、快活な表情は、クリスチャンの周りに魅力を投げかけ、その感化力をほとんど抵抗しがたいものとする。人生のもっともいやしい歩みのうちにある人々に対してさえ言葉を親切にし、ふるまいをこころ引かれるものとするのは、心のうちにあるキリストの宗教である。自己を忘れることのうちに、彼が絶えず他の人々に与えている光と平安と幸福のうちに、人の真の尊厳が見られる。これこそ、尊敬を得、有用性の領域を広げるものであり、ほとんど何の代価もかからないものである。そしてこの道を追い求める人は、自分が当然の榮譽を受けていないと文句を言うことはない。しかし、聖書の規則が心に記されていなければならない。聖書の規則が毎日の生活で実行されていなければならない。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1886年11月11日)

10月19日

## 高尚な品性を築くレンガ

「不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。」(コリント第一 13:5-7)

快活で親切で上品なクリスチャンは、神とその真理のための感化力を持ち、逆にはなりえない。天から借りた光は、彼らを通してその明るくする光線を他の人々の道に注ぎかけ、彼らを次のように叫ばせる。「ああ、万軍の主よ、その力があなたにあり、その心がシオンの大路にある人はさいわいです」。

わたしたちが語る言葉、わたしたちの日ごとのふるまいは、木に成長している実である。もし実が酸っぱくておいしくないならば、その樹の根は純粋な源から栄養を引き出していないのである。もしわたしたちの品性が柔和でへりくだったものであるなら、もしわたしたちの愛情が自分たちの救い主と調和のうちにあるなら、わたしたちは自分の命がキリストと共に神のうちに隠されていることを示し、自分の後に明るい足跡を残すのである。わたしたちの生涯は、不信者の生涯と顕著な対照をなすものとなり、わたしたちと交わる人々はわたしたちがイエスと共にいてこのお方から学んだものであることを認めるのである。

クリスチャンは隠遁者となる必要はない。しかし世と交わる必要がある一方で、彼らは世のものではない。クリスチャンの礼儀を培うべきであり、日々実践すべきである。不親切な言葉は語らずにおき、他人の幸福に対する利己的な無関心は、思いやり深い同情へ譲るべきである。真の礼儀は真理と正義と混ぜ合わさるとき、人生を有益にするばかりでなく、愛と善行にうるわしくまたかぐわしいものとする。……

徳、正直、親切、そして忠実な高潔さは、高尚な品性をなす。これらの特徴を持っている人々は、不信者からさえも高い評価を得、教会における彼らの

感化力は非常に尊いものとなる。わたしたちは重要な事柄において正しくあるように要求されている。しかし、小事における忠実が、わたしたちを信任のより高い地位にふさわしいものとするのである。

多くの人々の側で、大いに真の礼儀が欠けている。父祖たちの時代以降にあった進歩について多くが述べられているが、それらの時代に生きていた人々の方が、この時代に啓発を自慢している人々が持っているよりも精練された状態や真実な礼儀作法を誇ることができる。高潔、正義、クリスチャンの親切が混じると、美しい組み合わせとなる。礼儀は御霊の徳の一つである。それは天の特質である。

天使たちは決して感情に走ったり、妬んだり、利己的になったり、嫉妬したりすることはない。荒々しい不親切な言葉が彼らの唇からもれることはない。そしてもしわたしたちが御使たちの仲間になるとすれば、わたしたちも精練され、礼儀正しくなければならない。……クリスチャンはたやすく挑発されない愛、寛容で親切ですべてを望み、すべてを耐える愛を培うのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1886年11月11日)

10月20日

## 品性の変化はここで起こる

「その力があなたに……ある人はさいわいです。」(詩篇 84:5)

わたしたちはだれ一人なるべき人、すなわち神がわたしたちになってほしいと思っておられる者、神のみ言葉がわたしたちになるようにと要求している者になっていない。そして神からわたしたちを締め出しているのは、わたしたちの不信仰である。なぜなら、わたしたちはいつでも自分の魂をこのお方のみ許に上げ、恵みと力を見出すことができるからである。キリストが来られるとき、わたしたちの汚れた体はこのお方の栄光の体のように変えられるが、わたしたちの汚れた品性はそのときに聖なるものにされることはない。品性の変化はこのお方が来られる前に行われなければならない。わたしたちの性質は純潔で聖なるものでなければならない。キリストがわたしたちの魂の上にご自分のみかたちが反映しているのを喜んでご覧になることができるように、わたしたちはキリストの思いを持たなければならない。

エノクは顕著な品性の人であった。そして多くの人々は彼の生涯を、全般的に死すべき人間は到達し得ないはるかに超越したものだと思っている。しかし、死を見ないで天に移されるほど聖なるものであったエノクの生涯と品性は、キリストが来られるときに移されるすべての人の生涯と品性を表している。彼の生涯は、神に近く生きるならば、すべての人が一人ひとり持つことのできる生涯である。わたしたちはエノクが汚れた感化力に囲まれていたことを覚えておくべきである。彼の周囲の社会は、神がその墮落のために住民を洪水で破壊されたほど墮落していたのである。

エノクが今日地上にいるとしたら、彼の心は神のすべてのご要求に調和しているはずである。彼は、最も邪悪で墮落した感化力に囲まれていたにもかかわらず、神と共に歩んだ。ヤシの木は、クリスチャン生涯をよくあらわしている。

それは焼けつくような砂漠の中で真つすぐに立ち、枯れることがない。なぜなら、それは表面の下にある泉から栄養を得ているからである。

ヨセフはエジプトの偶像礼拝者たちに囲まれ、罪と冒瀆と墮落した感化力のただ中にいたときに、自分の高潔さを維持した。〔彼が〕徳の道から脇へそれるよう誘惑されたとき、「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができますよう」と答えた。エノク、ヨセフ、ダニエルは、無限の力に頼った。そしてこれがわたしたちの時代にクリスチャンが行くべき唯一の安全な道である。

これらの顕著な人々の生涯はキリストと共に神のうちに隠されていた。彼らは神に忠実であった。墮落のただ中で純潔であり、無神論や偶像礼拝に接触するよう導かれたときに敬神的で熱心であった。神聖な恵みを通して、彼らは純潔で聖なる品性の発達のために好ましい資質だけを培った。

わたしたちも同じことができる。エノク、ヨセフ、ダニエルが持っていた精神をわたしたちも持つことができる。わたしたちは同じ力の源から引き出し、同じ自制の力を持つことができる。そして、同じ恵みの力がわたしたちの生涯のうちに輝くことができるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1886年11月11日)

10月21日

## あなたの思うことが、あなたである

「神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ」(コリント第二 10:5)

オフルの黄金よりも価値のあるものは正しい思想の力である。わたしたちは自分たちの思想の正しい抑制力に高い評価を置く必要がある。なぜなら、そのような抑制力はわたしたちが主人のために働く準備をするからである。この世でのわたしたちの平安と幸福のために、自分の思いがキリストに集中することが必要である。その心に思うごとく、その人となりもまたしかればなりだからである。

憐れみ深い人は憐れみを見出し、心が清い人は神を見る。すべての不純な思想は魂を汚し、道徳的感覚を損ない、聖霊の印象を消す傾向にある。それは霊的な視力を曇らせ、人が神を見られないようにする。主は悔い改めた罪人を許すことができになるし、そうして下さる。しかし、許されてもお、魂は傷が残っている。霊なる真理のはっきりした識別力を持ちたいと望む人は、すべての不純な言葉や思想を遠ざけなければならない。

邪悪な思想は魂を損なう。神の改心させる力は心を変え、思想を精練し、きよめる。思想をキリストに集中させておくために、断固とした努力を払わない限り、恵みはそれ自体生活に現れることができない。思いは霊的な戦いに参戦しなければならない。すべての思想がキリストの従順へと捕われなければならない。すべての習慣は神の支配の下へおかれなければならない。

わたしたちはたえず純潔な思想の高尚にする力と、邪悪な思想の損なう感化力とを感知している必要がある。わたしたちの思想を聖なる事柄におこう。それらが純潔で真実であるようにしよう。なぜなら、どの魂にとっても、唯一の安全は正しく考えることだからである。わたしたちは自分たちの考えの統治

と育成のために神が手の届くところにおいて下さったすべての手段を用いるべきである。

わたしたちは自分たちの思いをキリストの思いとの調和のうちに入れなければならない。このお方の真理はわたしたちを、すなわち、体、魂、霊を聖化する。そして、わたしたちは誘惑に超越することができるようになる。

「この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない」とイエスは言われた。このお方の中にはサタンの詭弁に応ずるものが何もなかった。このお方は罪に同意されなかった。一つの思いにおいてさえ、誘惑に屈服されなかった。わたしたちもそうなれるのである。キリストの人性は、神性と結合していた。このお方は聖霊の内住によって戦いのために準備された。……わたしたちが信仰によってこのお方に結合している限り、罪はわたしたちの上に権をとることができない。神は品性の完全を得ることができるよう、わたしたちのうちにある信仰の手をつかみ、それをキリストの神性をつかむようそこに向けさせて下さる。……神のみ言葉のうちにあるすべての約束はわたしたちのものである。

「神の口から出る一つ一つの言葉によって」わたしたちは生きるべきである。……状況や自己の弱さを見ないで、み言葉の力を見なさい。その力はみなあなたのものである。(サインズ・オブ・タイムズ 1905年8月23日)

10月22日

## 品性は一つ一つの行為の結果

「小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。」(ルカ 16:10)

「小事に忠実な人は、大事にも忠実である」(ルカ 16:10)。人生に成功する道は、世人がいわゆる小事と名づけていることに良心的に注意を払うことである。小さな慈善行為、自己犠牲の小さな行動、人の助けとなるちょっとした言葉を語ること、小さな罪に注意を怠らないこと— こうしたことがキリスト教である。日々の祝福を感謝のうちに認めること、日々の機会を賢明に活用すること、ゆだねられた才能を勤勉に養うこと— こうしたことが主の要求しておられるところである。

小さな義務を忠実に行う者は、いつそう大きな責任の要求に応じる備えをしているのである。日々の生活において親切で丁寧な人、家庭にあつて寛大で忍耐強い人、いつも家庭を楽しくしようと心がけている人— こういう人は主がお召しになるとき、真っ先に自我を押えて犠牲を払う人である。

神の事業のために所有物をささげる気持はあっても、愛と感謝の心を、同時に主にささげるのでなければ無益である。外国の伝道地において真の宣教師になりたいと思えば、まず国内において真の伝道者とならねばならない。主のぶどう園で働きたいと願うなら、主が世話をゆだねられた小さなぶどう園を注意深くてがやすことによって、その準備をしなければならない。

人は、「その心に思うごとく、その人となりもまたしかればなり」である(箴言 23:7 文語訳による)。いろいろな心の思いによって、一日の書かれない歴史が作られるのであつて、それらの思いは、品性の形成と密接な関係があるのである。自分の思うことによほど気をつけなければならない。というのは、たった一つの不純な思いも魂に深い影響をあたえるからである。こうして悪い

思いは、心に悪い印象を残す。人は純潔で聖なる思いを宿すとき、ますます向上する。そうした思いによって、霊性の鼓動は活発になり、善をなす能力がまし加わるのである。一滴の雨粒につづいて雨がやって来て地をうるおすように、一つのよい思想は他のよい思想のために道を備えるのである。……

どんなに長い鎖も、一つ一つの環によって出来上がっているのである。もし一つの環が悪かったらその鎖は役に立たない。品性もこれと同じである。均整のとれた美しい品性は、一つ一つの善なる行為によって出来上がるのである。たった一つの欠点も、これを克服しないで温存しておく、それは人を不完全な者とし、聖なる都の門は彼に対して閉ざされる。天国にはいる者は、「しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいない」品性の持ち主でなければならない(エペソ 5:27)。けがれた者はだれもここにはいることはできない。あがなわれた者の中には、欠点のある者はただのひとりもないのである。

神の働きはどんなに小さな部分も完全であるから全体としても完全である。神は世界の創造の時と同じ注意深さをもって草の葉を形づくられるのである。天父が完全であられるようにわたしたちも完全になりたいと望むならば、小事をなすことに忠実でなければならない。(青年への使命 137-139)

10月23日

## わたしたちは生きた信仰によって キリストのうちに宿る

「神の宮と偶像となんの一致があるか。わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。』」（コリント第二 6:16）

わたしたちは生きた信仰によってキリストの内に住んでいるのである。個人的に信仰を働かせるときにキリストはわたしたちの内にお住みになるのである。わたしたちは聖なるご臨在による交わりをもっているのであって、このご臨在をみとめるとき、わたしたちの思いはイエス・キリストのとりことなるのである。わたしたちの霊的活動は、この交わりをはっきり意識しているかどうかにかかっている。エノクはこのように神と共に歩んだのである。キリストがわたしたちにとってどんな存在であられるか、また救いの計画においてキリストがわたしたちのためにどんな働きをなさったかを心に深く思うときに、信仰によってキリストはわたしたちの心に住まわれるのである。この世とわたしたち自身に対する神のこの大なる賜物についての意識を高めることにわたしたちは大きなよろこびを感じるのである。

こうした思いは品性の全体を支配する力をもっている。望みさえすれば、いつでも天来の友を持つことができることをわたしはあなた方に印象づけたいのである。……

キリストを深く心に思うとき、品性は聖なる像にかたどって形成されるのである。心はキリストの恩恵と愛についての思いに満たされる。キリストのご品性について瞑想するとき、キリストはわたしたちのすべての思いのうちに存在されるのである。キリストの愛がわたしたちを包む。真昼の輝く太陽を一瞬間み

つめてから目をそらすとき、見るもののすべての上に太陽の像があらわれるのである。

このように、イエスをみつめるときに、見るすべてのものの上に義なる太陽、キリストの像が反映するのである。わたしたちは他のどんなものを見ることも他のどんなことについて語ることもできないのである。キリストの像が魂の目に焼きつき、わたしたちの日常生活のあらゆる面に影響を及ぼし、わたしたちの性質全体を和らげしめるのである。みつめることによって、聖なる像、キリストのみ像に一致させられるのである。わたしたちは交わるすべての人にキリストの義という明るい気持ちのよい光を反射させる。わたしたちの品性は一変したるのである。なぜなら、心と魂と思いは、わたしたちを愛し、わたしたちのためにご自身を与えられたキリストの反射によって輝いているからである。ここにもまた信仰によってわたしたちの心に内住する個人的な生きた力の実現が認められるのである。

キリストの教えのみことばが受け入れられ、これがわたしたちを占領するとき、イエスはわたしたちの内に永住してわたしたちの思いと考えと行いを支配されるのである。……

イエス・キリストはわたしたちにとって全部であり、すべてのことにおいて最初であり最後であり、そして最上である。イエス・キリスト、キリストの精神、キリストの品性はすべてのことを色どり、またそれは縦糸となり横糸となって、わたしたちの全人格という織物をなす。……キリストを見つづけることによって、わたしたちはそのみ像を周囲のすべての人に反射するのである。(青年への使命 154-156)

10月24日

## 思想は神に集中しなければならない

「それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。」(ペテロ第一 1:13)

嵐が迫っており、それは激しさにおいて容赦がない。わたしたちはそれに直面する準備ができていようか。

わたしたちは、最後の時代の危険がまもなく訪れようとしていると言う必要はない。すでにそれらは来ている。わたしたちはいま魂と骨髄を肉の欲、食欲、情欲から切り離すために主の剣を必要としている。

たんだ思想に渡されていた思いは変わる必要がある。「それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。従順な子供として、無知であつた時代の欲情に従わず、むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならつて、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。聖書に、『わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである』と書いてあるからである」(ペテロ第一 1:13-16)。思想は神に集中しなければならない。いまや肉の心の生来の傾向を克服するために熱心な努力を払うべきときである。

わたしたちの努力、わたしたちの自己否定、わたしたちの辛抱強さは、追い求めている目的の無限の価値に見合うものでなければならない。キリストが勝利されたように勝利するものだけが、命の冠を勝ち取るのである。

人の大きな危険は、自己欺瞞、すなわち自己満足にふけて、それにより自分の力の源である神から離れることにある。わたしたちの生来の傾向は神の聖霊によって正されないかぎり、その中に道徳的死の種を持っている。

.....

キリストからの助けを受けるためには、自分の必要を自覚しなければならない。わたしたちは自分自身について真の知識を持たなければならない。キリストが救うことができになるのは、唯一自分自身が罪人であることを知っている人だけである。わたしたちが自分のまったく無力な状態を認め、自己信頼を捨てたときに初めて、神聖な力をつかむのである。

この自己放棄は、クリスチャン生涯の初めにだけなすのではない。天へ向かって一步前進するごとにそれは新たにされなければならない。わたしたちのすべての善行は、わたしたち自身の外からの力に依存している。であるから、絶えず心は神を求めて手を伸ばし、絶えず真剣に罪を告白し、神のみ前に魂をへりくだらせる必要がある。危険がわたしたちを取り囲んでいる。そしてわたしたちは自分の弱さを感じ、信仰の手によって、わたしたちの力強い救出者をつかんでいるときにのみ安全なのである。.....

「神の言葉はみな真実である、神は彼に寄り頼む者の盾である」(箴言 30:5)。(教会への証 8 巻 315, 316)

10月25日

## キリスト教の科学

「すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。」(コリント第一 9:27)

クリスチャンの生涯は戦いと進軍である。この戦いには休息がない。つねに努力し、忍耐をしなければならない。サタン誘惑に勝利してゆくには絶え間ない努力がいる。クリスチャンの高潔は何ものも抵抗できぬ熱心さをもって求むべきものであり、確固不動の決意をもって保持しなければならない。

だれでもきびしい、不撓の努力をせずに向上する者はいない。すべてが自己のためにこの戦いに参加しなければならない。だれも代りに戦うことはできない。わたしたち個人個人が自己の戦いの結果に対して責任をもつのである。ノア、ヨブ、ダニエルがそこに居たとしても、彼らの義によってむすこや娘を救うことはできないのである。

精通していなければならないキリスト教の科学がある。それは天が地よりも高いように、どんな人間の科学よりも、はるかに深く、広く、高い学問である。わたしたちは生来の性癖に調和しない方法で神に仕えなければならず、そのため、精神を鍛え、教育を施し、訓練しなければならないからである。悪に対する遺伝的あるいは後天的な性癖を征服しなければならない。キリストの学校の生徒となるために今までの教育や訓練を放棄しなければならぬこともよくある。

わたしたちの心は教育され、神に堅く立つようにされなければならない。誘惑に抵抗し得られるだけの思考の習慣を形成すべきであって、上を見ることを学ばなければならない。神のみ言葉の原則、すなわち、天のように高い、永遠に至る原則がわたしたちの日常生活にいかなる意義をもつかを悟るべきであ

って、すべての行動、言語、思想がこの原則に一致しなければならない。

聖霊の尊い美德は一瞬間に発達するものでなく、勇気、不屈、謙そん、信仰、神の救済力に対する不動の信念は長年の体験によって得られるものである。きよい努力の生活と確固として正義を守ることによって神の子の運命が決するのである。

わたしたちには時間の猶予がない。恵みの期間がいつ終るかわからない。永遠はわたしたちの目の前にあって、その幕は今にもあげられようとしている。天の使は自分のこと、この世のことからわたしたちの心をそらせようとしている。彼らをむだに働かせないようにしよう。

イエスが至聖所で立ち上がられ、ご自分の仲保の衣を脱ぎ、報復の衣をまとわれるとき、次の命令が出される。「不義な者はさらに不義を行い、……義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまみにさせよ。見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」(黙示録 22:11, 12)。(教会への証 8 巻 313-315)

10月26日

## キリストのご品性を生きる

「愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもな  
くきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい。」(ペテ  
ロ第二 3:14)

わたしたちの世界でなし得る最大の働きは、キリストのご品性を生きること  
によって神に栄光を帰すことである。(教会への証 6 巻 439)

ペテロと「同じ尊い信仰」をさずかった人々へあてたペテロの第二の手紙の  
中で、使徒はクリスチャンの品性を成長させるための神のご計画を明らかにし  
た。彼はこう書いている。

「神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなた  
がたに豊かに加わるように。いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イ  
エスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄  
光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。また、  
それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。  
それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質に  
あずかる者となるためである。」

「それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳  
を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に  
兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。これらのものがあなたがたに備わって、  
いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識につい  
て、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはないであろう」(ペテ  
ロ第二 1:2-8)。

これらの言葉は教訓に満ちていて、勝利の基調をなす。使徒は、信者にク  
リスチャンの進歩のはしごを紹介しているが、そのひとつひとつの階段は神を

知る知識の進歩をあらわし、このはしごを登るのに行き詰まりはない。信仰、徳、知識、節制、忍耐、信心、兄弟愛、愛は、はしごの階段である。この階段を一段一段登って、われわれに対するキリストの理想の高さに達する時に、われわれは救われるのである。こうしてキリストはわれわれの知恵となり、義と聖とあがないとになられる。

神はその民を栄光と徳に招いておられる。そしてこれらは神と真実につながっている人々すべての生活にあらわれる。天の賜物にあずかる者となったら、彼らは「信仰により神の御力に守られて、」完全を目指して進まなければならない（ペテロ第一 1:5）。

神の徳をその子らにお与えになることは、神の栄光である。神は人々が最高の標準に達するのをご覧になりたいと望んでおられる。そして、信仰によってキリストの力をつかみ、主の確かなみ約束に訴えてそれを自分のものとして求め、拒まれないようしきりに聖霊の力を求めるならば、彼らはキリストにあってそれに満たされるのである。（患難から栄光へ下巻 229, 230）

10月27日

## 神の知識は命にかかわる

「主はこう言われる、知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。力ある人はその力を誇ってはならない。富める者はその富を誇ってはならない。誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さとくあって、わたしを知っていること……がそれである。」(エレミヤ 9:23, 24)

福音の信仰を受けたら、信者……は品性に徳を加えなければならない。こうして心をきよめ、神についての知識を受けるにふさわしい心にするのである。この知識は、すべての真の教育と真の奉仕の基礎である。これが、誘惑を防ぐ唯一のたしかな防衛手段である。そして、これだけが、人を品性において神に似たものとすることができる。神とみ子イエス・キリストを知ることによって、信者には、「いのちと信心とにかかわるすべてのこと」が与えられる。神の義をいただきたいと心から願う人には、よい賜物が惜しみなく与えられる。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたかわされたイエス・キリストとを知ることであります」と、キリストは言われた(ヨハネ 17:3)。また預言者エレミヤは言った、「……わたしが主であって、地に、いつくしみと公平と正義を行っている者であることを知ることがそれである。わたしはこれらの事を喜ぶと、主は言われる」(エレミヤ 9:23, 24)。この知識を得る者が、霊的にどれほど広く深く高く到達するかは、人間の心ではほとんど悟ることができない。

だれでも自分の活動範囲内で、クリスチャン品性の完成を目指して、果たせないことはない。いのちと信心とにかかわるすべてのことを信者たちが受けられるように、キリストの犠牲によって準備がなされた。神はわれわれが完全な標準に到達するように求めておられ、キリストのご品性の模範をわれわれに示しておられる。救い主は、悪に抵抗した生活を貫き通して完全なものとなされ

たご自身の人性によって、人間が神と協力すれば、この世において品性の完成に到達できることをお示しになった。これは、われわれも完全な勝利を得ることができるという神からの保証である。

キリストのようになる、すなわち、律法のあらゆる原則に従うというすばらしい可能性が、信者の前に提供されている。……人は救われる前にきよくならねばならないと神のみことばは言明しているが、このきよさは、彼が真理のみ霊の訓練や抑制する感化力に身を低くして従うときに、神の恵みが働いて生じる結果である。キリストの義のかおりによってはじめて、人は完全に従順になることができる。キリストの義は従順な行為の一つ一つを神の香気で満たす。

クリスチャンの役割は、一つ一つの罪に辛抱強くうち勝つことである。彼は罪に悩む自分の魂の乱れをいやしていただくように、救い主に絶えず祈らなければならない。彼にはうち勝つ知恵も力もない。これは主のもので、主は、謙遜に悔いて助けを求めてくる者たちにこれらを授けて下さる。(患難から栄光へ下巻 231, 232)

10月28日

## 恵みのうちに絶えず成長する必要性

「兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選  
びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。」  
(ペテロ第二 1:10)

清くないものから清いものに変える働きは、継続的なものである。毎日、  
神は人の聖化のために働いて下さる。だから人は、神に協力して、辛抱強く、  
正しい習慣を養う努力をしなければならない。人は恵みに恵みを加えなけれ  
ばならない。こうして足し算で働くとき、神は彼のために掛け算で働いて下さる。  
われわれの救い主は、悔いる心を持つ者の祈りを聞き、それに答える準備が  
いつでもできておられる。そして恵みと平安が、忠実な者たちの上に増し加え  
られるのである。主は、彼らにからみつく悪との戦いに必要な祝福を、喜んで  
彼らに与えて下さる。

クリスチャンの進歩のはしごを登ろうとしている人々がいる。しかし、彼らは、  
上に進んで行くにしたがって、人間の力に頼りはじめ、やがて、信仰の創始  
者であり完成者であられるイエスを見失ってしまう。結果は失敗である。つま  
り、これまでに得たものをすべて失ってしまうのである。途中で疲れてしまって、  
これまで彼らが心と生活の中で育ててきたクリスチャンの恵みを、魂の敵に盗  
ませている人々の状態は、まことに歎かわしい。「これらのものを備えていな  
い者は、盲人であり、近視の者であり、自分の以前の罪がきよめられたことを  
忘れていた者である」とペテロは説明している。

使徒ペテロは神のことに長い経験を積んできた。神の救いの力を信じる信  
仰は年とともに強まった。そして彼は、信仰によって前進し、はしごを一段ず  
つ登って、天の入口にまで達している最上段を目指して上へと絶えず前進する  
者の前には、失敗の可能性がないのだということを、疑いなく証明するまでに

なっていた。

長年にわたってペテロは、絶えず恵みと真理の知識に成長する必要があることを信者たちに力説してきた。そして今、信仰のためにまもなく殉教の苦しみを受けることを知って、彼は再び、信じる者はだれでも到達することのできるこの尊い特権に注意を引いた。信仰を十分に確信している年老いた使徒は、クリスチャン生活における確固とした目的を兄弟たちに説いた。「それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしてください。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。こうして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるからである」と、彼は説いた。

なんというすばらしい保証であろう。信仰によってクリスチャン完成の高みへ進んでいるとき、信者の前途にある希望は、なんと輝かしいものであろう。(患難から栄光へ下巻 232,233)

10月29日

## ヨハネの品性はキリストを反映していた

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。」(ヨハネ第一 4:10, 11)

ヨハネの生活と品性にあらわれていたキリストへのひたむきな愛と無私の献身は、キリスト教会に口で言いあらわせない価値のある教訓を与えている。ヨハネは、のちの経験にあらわれているような美しい品性を生まれつき持っていたのではなかった。彼には生まれつきのひどい欠点があった。高慢で、身勝手に、名誉欲が強かったばかりでなく、激しい性質で、侮辱されると憤慨した。彼とその兄弟たちは「雷の子」と呼ばれていた。短気、復讐心、批判的精神といったようなものがすべてこの愛された弟子の中にあつた。しかしこうしたすべてのものの下に、天来の教師イエスは、熱心で、誠実で、愛すべき心を認められた。イエスは彼の身勝手を譴責され、彼の野心をくじいて、信仰を試められた。しかしイエスは、ヨハネの魂が求めていたもの、すなわち、聖潔の美、愛の改変力を彼にお示しになった。……

キリストの教えは、恵みに成長し、みわざにふさわしいものとなるために欠くことのできない柔和と謙遜と愛を説くもので、ヨハネに最も貴重なものとなった。彼は一つ一つの教えを大事にして、絶えず自分の生活を聖なる模範に一致させる努力をした。……主の教えが彼の魂に刻みつけられた。彼が救い主の恵みをあかししたとき、彼の単純な言葉は、全身に満ちた愛により雄弁になった。

ヨハネは、キリストに抱いていた深い愛により、いつもキリストのそば近くにいたいと願った。救い主は十二人の弟子たちみんなを愛されたが、ヨハネ

の気持ちは最も受容性に富んでいた。彼は他のだれよりも若かった。そして、だれよりも、子供のような打ち解けた信頼からイエスに心を開いた。こうして彼はキリストと更に共鳴するようになり、彼を通して救い主の最も深い霊的教えが人々に伝えられた。

イエスは天の父を代表する人々を愛される。そしてヨハネはほかの弟子たちにできなかった天の父の愛について語る事ができた。彼は神の特質を自分の品性にあらわし、自分の魂の中で感じていた事を仲間に示した。主の栄光が彼の顔にあらわされた。彼を変えた神聖な美しさが、キリストのような輝きをもって彼の顔から輝き出た。ヨハネは敬慕と愛を抱いて救い主を見つめているうちに、キリストに似た者となった。そしてキリストと交わることが彼の一つの望みとなり、ついには彼の性格のうちに主のご品性が反映するようになった。(患難から栄光へ下巻 242-248)

10月30日

## 弟子たちはキリストの愛を表した

「主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。」(ヨハネ第一 3:16)

キリストの昇天後、ヨハネは主のための忠実で熱心な働き人として目立った存在となった。……彼は……聖霊の降下を受け、新しい熱意と力とで人々にいのちのことばを語り続け、彼らの思いを見えない神に向けさせようとした。彼は非常にまじめで熱心な、力に満ちた説教者であった。彼は美しい言葉で、また、音楽的な声でキリストのことばと働きを語り、聞く人々に感銘を与えた。彼は、簡潔な言葉と、語る真理の崇高な力と、彼の説教を個性的にしている熱情とにより、すべての階級の人々に近づくことができた。

使徒ヨハネの生活は、彼の教えと調和していた。彼は心の中で育ったキリストへの愛に導かれて、同胞のために、また特にキリスト教会の兄弟たちのために、熱心な、たゆまない働きを進めた。

キリストは最初の弟子たちに、キリストが彼らを受愛されたように、互いに愛し合いなさいと命じておられた。こうして彼らは、うちにキリストの形ができたことを、すなわち、栄光の望みを世にあかししなければならなかった。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを受愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」と、キリストは言われた(ヨハネ 13:34)。これらのことばが語られたとき、弟子たちはそれを理解できなかった。しかし彼らは、キリストの苦しみを目撃してのち、キリストの十字架の死と復活と昇天を目撃してのち、そして聖霊がペンテコステの日に彼らの上に注がれてのち、神の愛と、お互いに持たねばならないその愛の性質についての概念を一層はっきり持つようになった。……

聖霊の降下ののち、弟子たちが生ける救い主を宣べ伝えに出て行ったとき、彼らの一つの願いは人々の魂の救いであった。彼らは聖徒たちの交わりのすばらしさに恵まれた。弟子たちはやさしく、思いやりがあり、自制し、真理のためには喜んで犠牲を払った。毎日、互いに交わるうちに、キリストが彼らに申しつけられた愛をあらわすようになった。私心のない言葉と行為によって、彼らは他の人々の心にこの愛をともしよう努めた。

このような愛を信者たちは常に抱いていなければならなかった。また更に、新しい戒めに心から従うよう前進しなければならなかった。こうして彼らは、キリストと一致すれば、主のすべての要求を満たすことができるようになるのである。彼らの生活は、ご自身の義によって彼らを義として下さる救い主の力を表現しなければならなかった。(患難から栄光へ下巻 249-251)

10月31日

## 天の事柄を熟考する

「しかるに、あわれみに富む神は、……キリスト・イエスにあつて、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。」(エペソ 2:4-6)

もしわたしたちがまもなく起ころうとしている重大な出来事を心に留めているならば、品性においてこれほど弱いはずがない。自分たちが神のみ前に生存していることを感じて、畏敬を覚え、驚いて次の命令に注意を払うべきである。「静まって、わたしこそ神であることを知れ」。ああ、いつになったら、わたしたちは救い主の働きととりなしの価値を十分に悟るのであろう。いつ、わたしたちはこのお方に十分な信頼を持ってより頼み、高尚で、純潔で、献身した生涯を送るのであろう。キリストの徳によって聖化され、靈感を受けるとき、想像はどれほど高く到達することができるのであろう。わたしたちは将来の栄光、永遠の世界をつかむことができる。あたかも見えないお方を見ているかのように生きることができる。見ることによってではなく、信仰によって歩みなさい。……

聖書を探ることによって、わたしたちは自分たちがキリストにとってどういう存在であるか、またこのお方がわたしたちにとってどういう存在であるかを理解することができる。このお方を眺めることによって、わたしたちはこのお方のみかたちに変えられていき、このお方と共に働く共労者となり、生活と品性においてこのお方を代表する者となるのである。わたしたちは神のむすこ娘として神を最高に愛し、自分の隣人を自分自身のように愛して、生きるべきことを悟るために学ばなければならない。わたしたちは純潔で完全な生涯をキリストのために送らなければならない。イエスが完全の具現化であり、魅力の大中心であられるために、完全を愛するのである。わたしたちがいま生きる生涯は、神の御子を信じる信仰によって生きるものでなければならない。

もしわたしたちがキリストに従うならば、発作的な経験を持つたり、状況に左右されたり、周りの環境に感化されたりすることはない。感情に支配されたり、いらだちや妬みやあら捜しや嫉妬や虚無にふけったりすることはない。

キリストの均整のとれた生涯との調和からわたしたちを締め出し、勝利者となることを妨げるのは、これらの放縦である。わたしたちは日ごとの勝利を得るという高尚な目的と見張りと真心からの祈りによって、完全な自制を得るべきである。小さな試練が訪れるとき、魂を切りつけ、傷つける言葉が語られるとき、次のように自分に言い聞かせなさい、「わたしは神の子であり、イエス・キリストと共同の相続人であり、天との共労者である。たやすく感情を害して、いつも自分のことを考えているわけにはいかない。なぜなら、それはゆがんだ品性を産み、わたしの高い召しにふさわしくないからである。わたしの天父はわたしになすべき働きを与えて下さった。このお方のみ名にふさわしくそれをなそうではないか」。

わたしたちはイエス・キリストのご品性の卓越さを真剣に絶えず考えるべきである。こうしてこのお方の祝福を与え、人々をこのお方のみ足の跡に従うよう導くことができるためである。(サイン・オブ・タイムズ 1893年1月10日)

## 研究 16

## 三重のメッセージ



## 第三天使のメッセージ

## Part 3

## 第三天使と健康改革

第三天使は、特別な任務をもって、わたしたちの救い主から遣わされました。「イエスは、聖所における奉仕を終わり、至聖所にはいって、神の律法を納めた箱の前に立たれたときに、世界に対する第三のメッセージをたずさえたもうひとりの力強い天使を、お送りになった。……このメッセージは、神の民の前にある試みと苦悩の時を彼らに示して、彼らに用心させるためのものであった。『彼らは、獣とその像と激しく戦わなければならない。彼らが永遠の生命を得る唯一の希望は、堅く立つことである。彼らは、その生命が危機にひんしても、真理に固く立たなければならない』と天使は言った。第三の天使は、『ここに、神の戒めとイエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある』と言って、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返したときに、天の聖所を指さした。このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。イエスはそこで箱の前に立って、恵みがなお与えられているすべての人々と、知らずして神の戒めを破った人々のために最後の仲保をしておられるのである。」(初代文集 414, 415)

わたしたちが第三天使とその働きの最も厳粛なメッセージを理解するために、そして印される者たちの間に数えられ、世に最後の警告のメッセージを伝えるために、神はわたしたちに健康改革のメッセージを与えてくださいました。なぜなら、わたしたちは「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として

ささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである」と訓告されているからです（ローマ 12:1, 2）。

「体力を減退させるものは、なんであっても、精神を弱め、善悪の識別力を弱める。だんだん善を選ぶ力がなくなり、正しいと知りつつ、それを行なう意志の力がなくなる。身体の諸機能を誤用するならば、神の栄光のために用いることができるはずの寿命をちぢめ、神からゆだねられた仕事を果たすことができなくなる。」（キリストの実物教訓 346）

「健康改革は、第三天使の使命の宣伝の中でもっと顕著に目立たなければならぬ。健康改革の原則は神の言葉の中に見出されるのであって、健康の福音はみ言葉の宣布と堅く結合していなければならぬ。神のご計画は、健康を回復させる健康改革の影響が、福音のメッセージを宣伝する最終的な大運動の一部となることである。」（食事と食物に関する勧告 70）

「キリストの賜物によって、到達することができるようにして下さった完全さの標準に達することを、神はわたしたちに望んでおられる。神はわたしたちが正しい側を選んで神や天使たちと結合し、神のみかたちをわたしたちの内に回復させる原則をとり入れるように求めておられるのである。神は、聖書と、偉大な書物である自然界に生命の原則を表示しておられる。これらの原則についての知識を得、これに服従することによって神と協力し、心と肉体の健康を回復することはわたしたちの仕事である。」（食事と食物に関する勧告 10, 11）

「神のみ霊は、わたしたちが健康を害するような食欲にふけり、生活の誇りが支配している間は、クリスチャン品性を完成させるためにわたしたちを助け、支援するためにわたしたちのところへ来ることはおできにならない。」（健康改革者 1871 年 9 月）

「神性にあずかるすべての人は、世にある欲のために滅びることを免れるようになる。食欲の放縱にふける人がクリスチャン品性の完全に達することは不可能である。」（教会への証 2 卷 400）

「飲食や衣服はどれもわたしたちの霊的な進歩に直接関係がある。」（食事と

## 食物に関する勸告 53)

「わたしたちの飲食の習慣は、わたしたちが世のものであるか、あるいは主がご自分の真理のナイフで世から分離された人々の中にいるかを示す。」(教会への証 6 卷 372)

「これが真の聖化である。それは単なる理論や、感情、あるいは言葉の形式ではなく、生きた、活動する原則であり、毎日の生活の中に入るものである。それはわたしたちの飲食や衣服の習慣が、身体的、精神的、また道徳的健康を維持し、確実にするようなものであることを要求する。それはわたしたちが自らの体を主に一悪習慣によって墮落したささげ物としてではなく、『神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物』としてささげることができるためである。」(ビュー・アノド・ヘルド 1881 年 1 月 25 日)

「幾年も神は、彼の民の注意を健康改革に向けてこられた。これは、人の子の来臨に備える働きの主要な部分の一つである。バプテスマのヨハネは主の道を備え、人々に義人の思いを持たせるためにエリヤの霊と力をもつて出て行った。彼は、キリストの再臨に人々を備えるための神聖な真理を示すようにこの最終時代に生存する、神から委託された者たちの代表者である。ヨハネは改革者であった。天使ガブリエルは直接天から遣わされてヨハネの父母に健康改革に関する教えを与え、ヨハネが酒や強い飲料を飲んでではならない事、また、誕生の時から聖霊で満たされるということを話した。

ヨハネは友人や贅沢な生活から自分で離れた。らくだの毛で織られた衣服という彼の服装の単純さは、ユダヤの祭司たちや一般の民の贅沢さと見栄を張ることに對する絶えざる譴責であった。また、彼のいなご豆と野蜜で出来上がった純菜食の食事は、至る所にはびこっていた食欲への耽溺(たんでき)や暴食に對する譴責であった。預言者マラキは、『見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせる』と述べているが、ここに預言者はその働きの性質を説明している。ヨハネがエリヤの霊をもつてキリスト初臨の道を備えたように、キリストのご再臨のために道を備えなければならない人々も、忠実なエリヤとして表されるのである。

改革の偉大な主題が取り上げられるべきであり、人々の思いがかきたてられるべきである。神の民をその偶像、すなわち暴飲暴食や衣服やその他における彼

らの贅沢から向き直らせるために、万事につける節制がこのメッセージに結び付けられるべきである。」(食事と食物に関する勧告 65, 66)

### 健康と平安と完全な品性

「わたしたちの主イエス・キリストは人類の必要に応じられるために倦むことのないしもべとしてこの世においでになった。彼は人類のすべての必要に奉仕なさるために、『わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負』われた(マタイ 8:17)。すなわち、病気の重荷とあわれな状態と罪を除くために、キリストはこられたのである。人類を完全に回復することが彼の使命であった。彼は、健康と平安と完全な品性を与えるためにおいでになったのである。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 3)

### 神を畏れて全く清くなる(聖潔を完成する)

「愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くならうではないか。」(コリント第二 7:1)

「周囲の事情が改革を起こさせることはできない。キリスト教は心の中で改革を推し進める。キリストの内なる働きが、改心した知性の指示の下で外に実行されるのである。外から始めて中に向かってする努力は、いつも失敗に終わるのである。神のあなたに関する計画はすべての難問題の一大中心である心から始めることであって、そうするならば、義の原則が心の中から出てくるようになり、改革は内にも外にも向かって行われるのである。」(食事と食物に関する勧告 31, 32)

### 昔の断食—今日の健康改革

「贖罪の日には、……すべての人は魂を悩まさなければならなかった。日常の働きをやめて、イスラエルの全会衆は、その日を厳粛に神の御前にへりくだって過ごし、祈り、断食し、心を深くさぐったのであった。」(人類のあけぼの上巻 419, 420)

「真の断食と祈りの精神とは、思いと心と意志を神に明け渡す精神である。」(原稿 28, 1900 年)

「すべての人に推奨されるべき真の断食は、あらゆる種類の刺激的な食物を

禁じ、神が豊かに備えておられる健全で単純な食物を用いることである。」(医療伝道 283)

「周囲の異邦人が自由に食べていた食物の大部分はイスラエル人には禁止された。しかし、それは専横的に差別をつけたのではなく、禁じられたものは不衛生なものであった。こうしたものが不潔であると宣言された事実は有害な食物を食すると汚れる事実を教えるものである。身体を汚すものは魂をも汚すことになり、これを食する者は神とまじわるには不適當なものとなり、崇高な、きよい奉仕をするにはふさわしくない者となる。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 256)

「今もこれから世の終わりまで神の民は、ますます熱心に、ますますはつきりと目覚め、自分自身の知恵に頼らず、自分たちの指導者なるお方の知恵により頼むべきである。彼らは断食と祈りのために数日を取り分けるべきである。全ての食物を絶つ必要はないかもしれないが、彼らは最も単純な食物を控えめに食するべきである。」(レビュー・オブ・ワールド 1904年2月11日)

「世にあるすべての断食も、神のみ言葉に単純により頼むことの代わりとはならない。……あなたは四〇日間の断食をするようにとは要求されていない。主があなたのために誘惑の荒野でその断食に耐えてくださったのである。このような断食には何の徳もない。しかし、キリストの血にこそ徳があるのである。」(手紙 206, 1908年)

## 贖罪の日に(1844年以來)

「その日、万軍の神、主は泣き悲しみ、頭をかぶろにし、荒布をまとうことを命じられたが、見よ、あなたがたは喜び楽しみ、牛をほふり、羊を殺し、肉を食い、酒を飲んで言う、『われわれは食い、かつ飲もう、明日は死ぬのだから』。万軍の主はみずからわたしの耳に示された、『まことに、この不義はあなたがたが死ぬまで、ゆるされることはない』と万軍の神、主は言われる。」(イザヤ 22:12～14)

肉を食するとはどういう意味でしょうか。それは動物の肉だけを指すのでしょうか。神のみ言葉ははつきりと教えています。

「すべての肉が、同じ肉なのではない。人の肉があり、獣の肉があり、鳥の肉があり、魚の肉がある。」(コリント第一 15:39)

「すべてその日に身を悩まさない者は、民のうちから断たれるであろう。」(レ

ビ記 23:29)

「天使たちの社会に入ることができるように、聖なる純潔で精錬された者となるために準備している民が、神の被造物の命を取り、その肉を食べて、贅沢(ぜいたく)品として楽しみ続けるのであろうか。」(教会への証 2巻 63)

「今は肉食の問題に関して半分しか改心していない多くの人々は、神の民から出て行き、それ以上彼らと共に歩まなくなるのである。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1902年5月27日)

### 断食の目的(真の健康改革)

「このようなものは、わたしの選ぶ断食であらうか。人がおのれを苦しめる日であらうか。そのこうべを葦のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くことであらうか。あなたは、これを断食ととなえ、主に受けいられる日と、となえるであらうか。わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。」(イザヤ 58:5, 6)

「神のみことばが命じている断食は、単なる形式ではない。この断食は、食物をとらずに荒布をまとい、頭に灰をふりかけるだけのことではない。真心から罪を悲しんで断食する者は、決してこれを誇示しようとはしないのである。

神がわたしたちに求めておられる断食の目的は、魂の罪のためにからだを苦しめることなく、わたしたちが罪の嘆かわしい性質を理解し、神の前に心を低くしてその寛大な恵みを受けられるようになる助けとなるためである。……悔い改めとは自己からキリストへと向きなおることである。」(祝福の山 107, 108)

### 第三天使のメッセージの一部

わたしは、健康改革が第三天使のメッセージの一部であり、ちょうど腕や手が人間の体につながっているように、そのメッセージに密接につながっていることを示された。……神の民は第三天使の大いなる叫びのための準備ができていない。彼らには、神が自分たちのためにしてくださるのをただ待っているべきではなく自らなすべき働きがある。神は彼らがこの働きをするようにとお委ねになった。これは個人個人の働きである。だれかが他の人のためにすることはできない。……暴飲暴食はこの時代の一般的な罪である。欲深い食欲は、男女を奴隷にし、彼

らの知性を曇らせ、彼らの道徳的感覚をあまりにももうろうとさせるので、神聖にして高められている神のみ言葉の真理が正しく理解されないほどである。より低俗な傾向が男女を支配してきた。」(教会への証 1 巻 486, 487)

「1871 年 12 月 10 日、わたしは再び、健康改革が人々を主の再臨に備えさせるための偉大な働きの一部であることを示された。それは手が体につながっているように、第三天使のメッセージに緊密につながっている。」(教会への証 3 巻 161, 162)

「健康改革は、腕が胴体につながっているように、第三天使の使命と密接に関係しているが、腕が胴体の代わりになることはできない。第三天使の使命、神の律法とイエスの証を宣言することが我々の働きの主旨であって、その使命は大声で宣言されなければならないし、また全世界に伝えられなければならない。この使命と合わせて健康の原則を紹介しなければならないのであるが、どんな場合でもその使命から独立したり、あるいはいかなる点でもその代わりにはならないのである。」(食事と食物に関する勧告 70)

「第三天使のメッセージの声は、力強く聞かれなければならない。真理の光を人々の前に届かせるためのあらゆる努力に、健康改革の教えを持ち込みなさい。」(医療伝道 304)

## 生活習慣における改革

「神はご自分の民が絶えず進歩することを求めておられる。わたしたちは食欲の放縦が精神的な向上と魂の聖化に対する最大の妨げであることを学ぶ必要がある。わたしたちは健康改革を大いに公言しながら、多くの者は不適切に食している。」(教会への証 9 巻 156)

「民として、わたしたちは健康改革を大いに公言しながら、あまりに食べ過ぎる。……わたしたちが懸命でない食物の組み合わせをするときに、不節制がわたしたちの食卓で始まる。霊の純潔をわがものにしたいと追い求めている一人ひとは、キリストには食欲を支配する力があるということを心に留めなさい。……」

生活習慣における改革は、民をキリストの再臨に備えさせるために、特にこの時代に必要とされている。……

衛生改革は、わたしたちがまもなく訪れようとしている出来事に備えるために、理解する必要のある主題である。これはしかるべき注意が払われてこなかった働

き、そして怠慢によって多くが失われてきた主の働きの一部である。それは主要な位置を占めるべきである。それは、軽々しく扱われるような問題でもなければ、さして重要ではないものとして見過ごしにされたり、笑い種にされたりすべきものでもない。もし教会がこの改革にもっと大きな関心を示していたなら、彼らの善に対する感化力は大いに増し加わっていたのである。

主の再臨を待っている人々にとって、またこのお方のぶどう園の共労者と呼ばれている人々にとって、一自ら永遠の王国の場所にふさわしい者になろうとしているすべての人々にとって一脳がはつきりとし、体ができる限り病氣と無関係であるということは、どれほど重要なことであろうか。」(セクレット・メッセージ 3 巻 291, 292)

「わたしはまた安息日遵守者の間で清潔さに欠けているのを見た。……わたしは神がご自分に特別な民を清めておられるのを見た。このお方はご自分の喜ぶことのできる清くて聖なる民を持っておられる。……

わたしは神がだらしのない、不潔な人をクリスチャンとはお認めにはならないことを見た。このお方はそのような者に肩(まゆ)をひそめられる。わたしたちの魂、体、また霊はイエス・キリストによってそのみ父に傷のない者として捧げられなければならない。そして、わたしたち自身が実際に清潔で、純潔でない限り、神に傷のない者として捧げられることはできないのである。

わたしは聖徒たちの家がきちんと整理されて、こぎれいに保たれ、どろやごみ、またあらゆる不潔さは除かれているべきことを見た。わたしは自分の子供たちに対して不注意な親によって、そして神の家での乱雑さと不潔さによって、そこが汚されているのを見た。これらの事は公然たる譴責をもって扱われるべきであり、もし真理を告白するある人々にこれらの事柄について直ちに変化がないならば、彼らは陣営から締め出されるべきことをわたしは見た。」(セクレット・メッセージ 3 巻 273, 274)

## わたしたちの創造主によって選ばれた食事

「最上の食物が何であるかを知るには、人類の食事に対する神の最初のご計画を学ばなければならない。人類を創造し、その必要を理解される神が、アダムに食物を指定し、『わたしは …… 種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう』と

仰せになった。罪に呪われた地を耕して生計を立てるためにエデンを出たとき、人間は『野の草』も食べる許可を受けた。

創造主によってわたしたちのために選択された食事は穀類、果実、堅果類、および野菜で構成されている。これらの食物をできるだけ単純で自然のままに調理したものが、最も健康的で栄養に富むのであ……る。

神は人類が食するように計画された食物を最初の祖先にお与えになったのであって、……園の中の木の実が人間の必要とする食物であった。」(食事と食物に関する勧告 73, 74)

### 霊的な礼拝

「しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」(ヨハネ 4:23, 24)。

「使徒パウロは教会に訓告して、『兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である』と言った(ローマ 12:1)。罪深い放縦は体を汚し、そして人を霊的な礼拝にふさわしくないものとする。神が健康改革に関して自分に与えてくださった光を大事にする人には、真理によって聖化され、不死にふさわしい者とされる働きにおいて、重要な助けを得る。しかし、もし彼が光を無視し、自然の法則を犯して生活するならば、必ずその報いを受けなければならない。彼の霊的な力は麻痺してしまう。そうなったら、どのように神を畏れて聖潔を完成させることができるであろうか。」(クリスチャンの節制と聖書の衛生 10)

(84 ページの続き)

自分に向かっておしよせる強力な流れにさからって泳ぐのはかんたんなことではありません!しかし、勇敢(ゆうかん)なサケはあきらめません。

この魚の生涯を観察しながら、わたしたちが創造主について学ぶことができる一つのことは何でしょうか。

たった今、わたしたちは第三天使のメッセージ—今まで神から与えられた中で最も厳粛なメッセージの時代に生きています。もうすぐ、世界のほとんどの人が、人々に獣(けもの)の刻印(こくいん)—自分たちの創造主より重要なふりをする人間の象徴(しょうちょう)—を強要しようとしています。しかし、神様は忠実な人々、すなわちおしよせる悪の潮流に面と向かって前進することにより、靈的に「流れにさからって泳ぐ」真実な人々をもっておられます。「敵が洪水のようにおしよせるとき、主の御霊(みたま)は彼に向かって旗印(はたじるし)を掲(かか)げて下さる」(イザヤ 59:19 英語訳)。

ですから、大変な問題が生じたとき、力を求めてイエスを見あげましょう。このお方はみなさんを生涯の真清水(ましみず)、すなわち純潔の源へ導きかえてくださいます。ちょうどサケが挑戦にあうとき、上に飛ぶ力を集めるように、あなたの創造主キリストは、あなたも助けるために、そこにいて下さいます。

「人々があなたがたを憎むとき、また人の子のためにあなたがたを排斥(はいせき)し、ののしり、汚名を着せるときは、あなたがたはさいわいだ。その日には喜びおどれ(喜び飛びはねよ)。見よ、天においてあなたがたの受ける報いは大きいのだから。彼らの祖先も、預言者たちに対して同じことをしたのである。」(ルカ 6:22, 23 強調付加)

## カシューチーズのピザトースト

〔材料〕

〔カシューチーズ〕

カシューナッツ	1 カップ
ココナツミルク	1 缶
豆乳	1 / 2 カップ
にんにく	1 片
塩	小さじ 1

全粒粉食パン

トマトソース (ベジタリアンの調理済ソース)

\* トマトソースを自家製で作られる場合は、みじん切りにした玉ねぎ 2 個をオリーブオイルでよく炒めて、トマト缶を加え、塩で味をととのえ、お好みでバジルやオリーブを加えます。お子様向きには、少しはちみつを入れても。

〔作り方〕

1. カシューチーズの材料をミキサーに入れて、なめらかになるまでまわします。
2. 全粒粉パンにトマトソースをぬって、その上にカシューチーズをぬって、トースターでこんがり焼きます。

あまったカシューチーズは、ドレッシングにしてもおいしいです。  
また冷凍保存ができます。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。

## 書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



## 信仰の跳躍 (ちょうやく)

しかし獣に問うてみよ、それはあなたに教える。空の鳥に問うてみよ、それはあなたに告げる。あるいは地の草や木に問うてみよ、彼らはあなたに教える。海の魚もまたあなたに示す。(ヨブ 12:7, 8)

サケは大西洋や太平洋の海岸地域の北洋に生息している良く知られた魚です。この注目すべき被造物(ひぞうぶつ)は、赤ちゃんのときは真水(まみず)の中でかえり、それから遠くその生涯のほとんどを大洋の塩水の中で過ごすために移っていきます。ついに、たまごを産む時期になると、それは自分の生まれたところ—真水—しかもしばしば自分が生まれたちょうどその川にもどっていきます。科学者たちは魚がその場所を嗅覚(きゅうかく)やその他の要素をとおして、部分的におぼえているのだと信じています。しかし、正確にはどのようにしてこれが起こるのかにかかわらず、このおどろくべき旅を導いておられるのは、力づよい神様のみ手であることにまちがいはありません。



家に帰るという目的を達成するためには、サケははげしく強い流れにさからって泳がなくてはなりません。これは非常にむずかしい仕事です!魚は、しばしばわきあがる波にさからって道を進むために、空中に飛ばなくてはなりません。事実、サケは英語で「サーモン」と言いますが、その名前はラテン語の「サルモ」つまり、「飛び上がるもの」という意味の言葉に由来しています。